

令和5年度

第六次青梅市生涯学習推進計画

進捗状況報告書

(令和4年度分事業)

青梅市生涯学習推進本部

はじめに

青梅市では、生涯学習施策を計画的に推進するため、令和元年度を初年度とする「第六次青梅市生涯学習推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

この報告書は、「第六次青梅市生涯学習推進計画」の進捗状況について年次報告として作成したものです。

生涯学習の理念である、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現に向けて、計画の総合的かつ横断的な推進を図ります。

令和5年10月

目 次

第 1 章

I 計画の概要	7
II 施策の展開	10
III 青梅市事業計画一覧	16

第 2 章

計画の進捗状況調査報告書	22
1 生涯学習の基礎づくり	24
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	24
(2) 小・中学校教育の充実	25
(3) 家庭・学校・地域の連携	27
2 生涯学習の場と機会の拡充	29
(1) 施設の整備と有効活用	29
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	29
(3) とともに生きるための学習機会の充実	34
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	36
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	38
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から	41
(1) 地域コミュニティ活動への支援	41
(2) 地域人材の育成と活用	43
4 学習情報提供と学習相談の充実	46
(1) 学習情報提供の充実	46
(2) 学習相談の充実	47
5 生涯学習推進体制の確立	48
(1) 推進体制づくり	48
(2) 基盤づくり	48

第 1 章

I 計画の概要

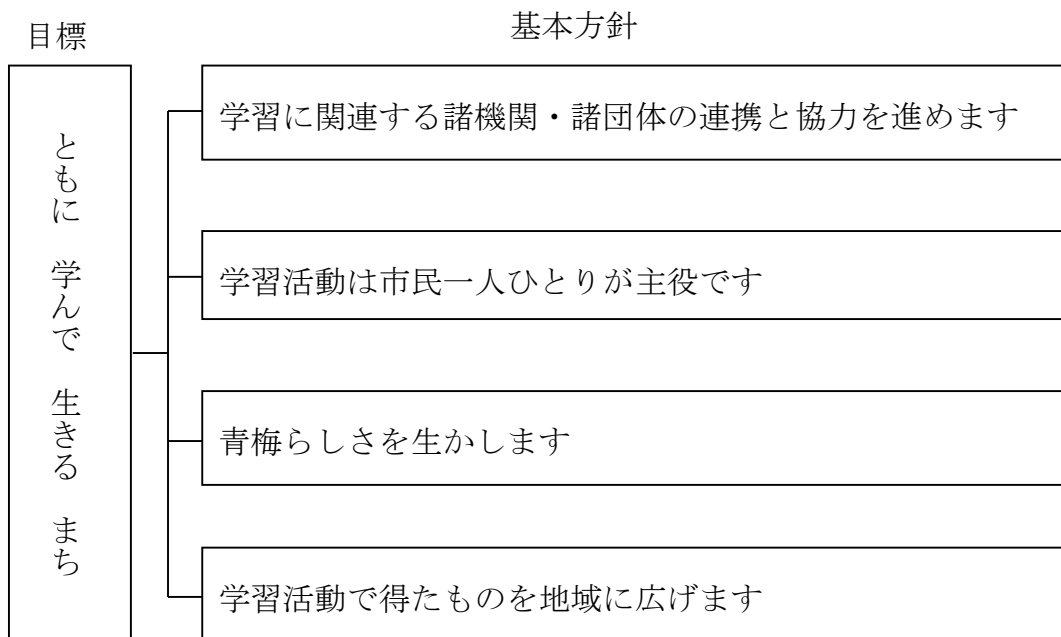
II 施策の展開

III 青梅市事業計画一覧

I 計画の概要

第六次青梅市生涯学習推進計画

1 生涯学習推進の目標と基本方針



市民が生涯を通じ、主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に生かしていくことができる「ともに学んで生きるまち」の実現を目指し、いつでも、どこでも、誰でもが学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図ります。

また、学習成果の総合的な発表の場や生涯学習の基盤となる施設の整備を図ります。

2 計画策定の趣旨

青梅市では、市民一人ひとりが生涯を通じて地域社会の中でともに学び・ともに教え合いながら、生きがいのある充実した生活を送ることができるような「生涯学習社会」を築くために、生涯学習推進計画を策定します。「ともに学んで生きるまち」を目指して、市と市民のパートナーシップをもとにした生涯学習のまちをつくるために、市が実施している生涯学習関連の諸事業を体系化するとともに、市内生涯学習関係機関団体、地域住民との連携・協働により、諸施策の効果的な展開を図っていきます。

3 計画の期間

令和元年度から令和5年度までの5年間とします。

この推進計画は、第6次青梅市総合長期計画（平成25年度から令和4年度まで）を上位計画とし、他の部門別計画とも整合性を図っていきます。

4 計画の指針

青梅市における生涯学習に関する施策の総合的・効果的な推進を図り、生涯学習に関する既存施策を総合的な観点から体系化するとともに、将来において展開する必要がある施策の考え方を示します。

5 計画の範囲

- (1) 生涯学習社会の形成に向けての行政の役割を明記するものですが、計画の推進に当たっては、生涯学習に関連する各種団体・機関等と連携を図りながら推進します。
- (2) 対象となるのは、教育、文化、スポーツのほか、趣味やレクリエーション、福祉、保健衛生、防災、まちづくり等、行政や各種団体・機関等で行う幅広い分野の学習事業とします。

6 生涯学習とは

生涯学習とは、市民一人ひとりが生涯にわたり、あらゆる機会に、あらゆる場所において主体的に行う学習活動の総称です。すなわち、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味等様々な場や機会において行う学習の意味で用いられ、学習の形態についても、個人学習や、公共機関等が行う講座・講演会、民間教育機関が行う講座、通信教育、企業や職業訓練施設等で行われる学習、グループ・サークル・団体活動の中で行われる学習など、多岐にわたります。

生涯にわたって学ぶという事は、ライフスタイルやビジネスを充実させるための知識学習、職業教育だけでなく、生きがいや心の豊かさに結びつきます。また、学習する向上心が地域の活性化をもたらし、学習活動を通してこそ、よりよい人間関係が生まれ、豊かで住みよい地域が実現されます。学習した人々が地域の担い手として地域づくりに参加し、学習の成果をまちづくりに活かしていくことが期待されています。

また、教育基本法では、「生涯学習の理念」という項目があり、「誰もが生涯のあらゆる場面で学習し、かつ学習した成果を生かすことができる社会」を実現しようという姿勢が明確に打ち出されています。

— スローガン —

「ともに学んでいきるまち」をめざして

O 応援します お互いに

M 学んで 教えて

E エンjoyします

みんなで 楽しむ 生涯学習

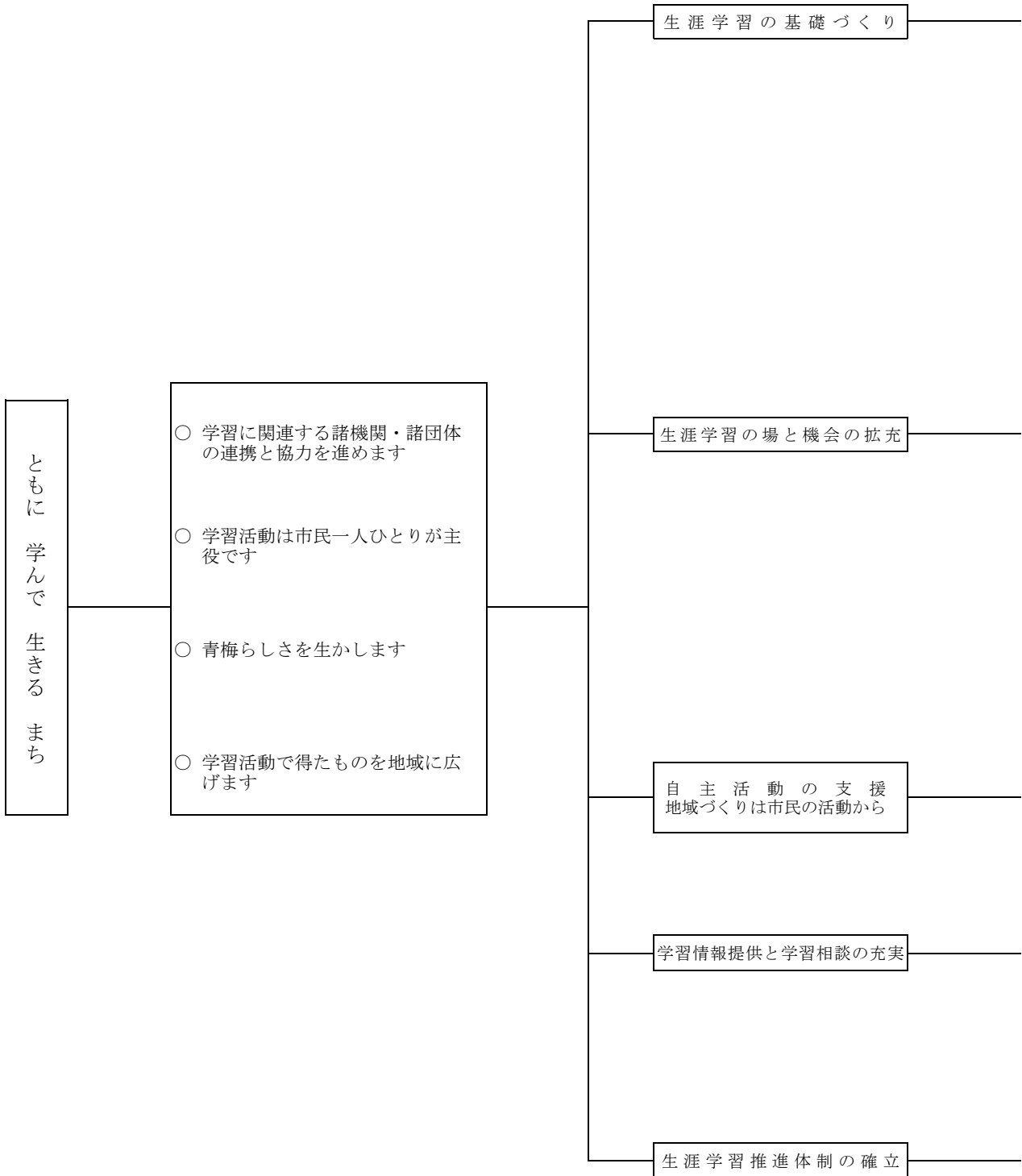
II 施策の展開

1 計画の体系

(目標)

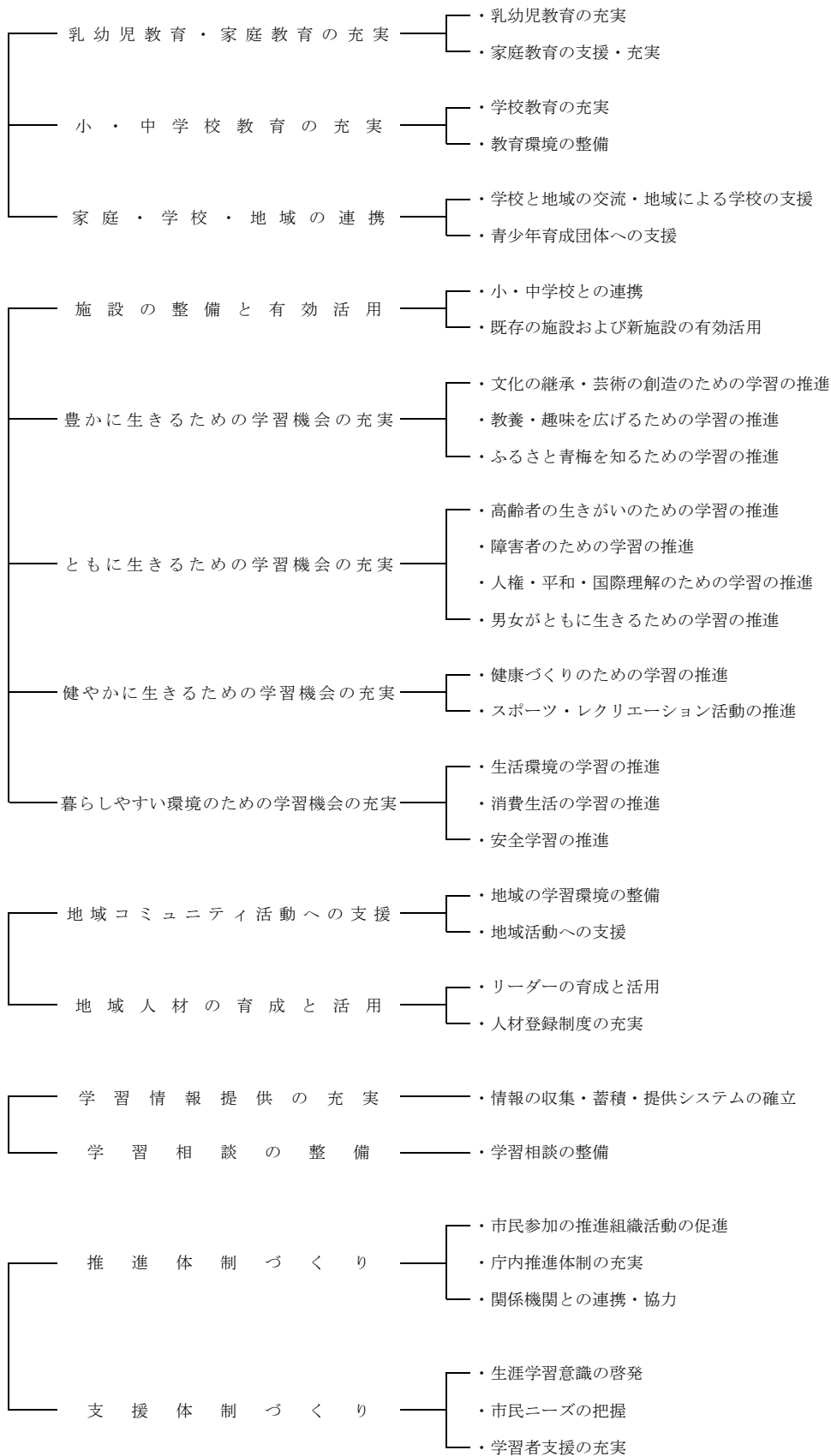
(基本方針)

(基本的施策)



(主な施策の方向)

(施策の内容)



2 基本的施策

- 1 生涯学習の基礎づくり
- 2 生涯学習の場と機会の拡充
- 3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から
- 4 学習情報提供と学習相談の充実
- 5 生涯学習推進体制の確立

1 生涯学習の基礎づくり

基本的な考え方

生涯にわたり自らが考え、創造性豊かな充実した人生を送るためには、人間形成の基礎をつくる子どもの時期に、基本的な学力や自らを成長させようという意欲、生きる力、社会生活の基本的ルールなどを身につけることが大事です。個性豊かな子どもの健全な成長を願い、家庭・学校・地域が連携して子育て支援・教育の充実を図り、地域社会全体で行われるような環境を目指します。

子どもを取り巻く学習環境を見ると、少子化・核家族化の進展と同時に、家庭教育力・地域教育力の低下が叫ばれています。また、いじめ、不登校等、様々な問題が子ども達に重圧をかけてきています。このようなことから、各保育園で行っている子育て支援事業との連携や、小・中学校との連携を含めた子育て相談、家庭教育の機会の提供など、家庭教育への支援や地域での青少年関係団体活動への支援などを通して「生涯学習の基礎づくり」に努めます。

主な施策の方向

- (1) 乳幼児教育・家庭教育支援の充実
- (2) 小・中学校教育の充実
- (3) 家庭・学校・地域の連携

2 生涯学習の場と機会の拡充

基本的な考え方

市民が自主的に生涯にわたって学習し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、市民一人ひとりがその能力や個性を伸ばし、「いつでも・どこでも・誰でも」学べるよう、学習の場と機会の拡充に努めます。市は、市民が持っている知識や経験を生かせるよう、コーディネーターの役割を果たし、学習内容を充実させていきます。

また、新しく開館する青梅市文化交流センターでは、市民のアイデアや意見等に柔軟に対応できる運営体制を築くことを目指し、地域の人材を生かしたプロデューサーを配置します。さらに、インターネットの活用をはじめ、様々な媒体を利用した生涯学習に関する情報提供の充実に努め、市民の利便性の向上を図ります。

主な施策の方向

- (1) 施設の整備と有効活用
- (2) 豊かに生きるための学習機会の充実
- (3) とともに生きるための学習機会の充実
- (4) 健やかに生きるための学習機会の充実
- (5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

基本的な考え方

地域づくり・まちづくりは市民の着実な活動から始まります。団体・サークル等の自主活動を通じて、仲間とのふれあいが生まれ、人々との関係が豊かになり、お互いに学び合い、教え合うような人間関係が形成されます。自主的な地域団体・生涯学習サークルの活動が活発になるよう応援するため、団体等の自主性を基本として、活動の場の提供や支援をしていきます。

また、生涯学習は本来行う事自体が楽しいものですが、学習の成果を地域社会に生かすことは、学習者にとって自己の成長を確認できるなど、大きな意味も持ちます。生涯学習を通じて得た学習の成果を、地域やボ

ランティア活動に生かし、市民同士が教え合い、学び合う環境を整備し、生涯学習が地域の市民の手で推進していく体制の確立を図ります。

主な施策の方向

- (1) 地域コミュニティ活動への支援
- (2) 地域人材の育成と活用

4 学習情報提供と学習相談の充実

基本的な考え方

市民一人ひとりの学びの意思・意欲を大切にするとともに、学習活動が活発に行われるためには、生涯学習情報を「いつでも・どこでも・誰でも」入手できることが求められています。

このことから、広報等の印刷物による学習や機会の場・方法などに関する情報をはじめ、インターネット等様々な媒体を利用して情報を提供し、生涯学習に関する情報を発信することで、市民の生涯学習を支援します。

主な施策の方向

- (1) 学習情報提供の充実
- (2) 学習相談の整備

5 生涯学習推進体制の確立

基本的な考え方

青梅市における生涯学習関連事業は、教育行政だけでなく、一般行政においても活発に行われています。市民の自主的な学習活動を効果的に支援していくために、現在各事業の担当課で独自に企画・実施されている生涯学習事業を、それぞれの事業の目的を大切にしながら、市民の生涯学習の推進という視点から捉え直し、「生涯学習推進本部」や「総合教育会議」などを通じて情報を共有し、相互に連携・協力関係を築いていくことが大切です。

また、各課の連携・協力関係を築くことで、類似の事業が重複して実施されることを避け、バランスよく効率的に事業を実施していくことが

できます。

さらに、学習の主体である市民の意見を生涯学習の推進施策に反映させていくことが大切であり、電子申請による講座企画等のアイデア受付機能を活用し、市民の意見にもとづく講座を実施する等、施策の充実を図ります。

また、市と市民が協力しながら施策を進めていくための情報交換や意見交換の場が必要です。このことから、市の推進組織である青梅市生涯学習推進本部と、学識経験者や生涯学習関係団体の代表者からなる青梅市生涯学習推進市民会議の連携・協力関係を推進し、生涯学習推進体制の充実を図ります。

主な施策の方向

- (1) 推進体制づくり
- (2) 支援体制づくり

Ⅲ 青梅市事業計画一覧

No.	事業名	所管課等	頁	
1 生涯学習の基礎づくり			24	
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実				
1	プレママクラス（母親・両親）学級	健康課	24	
2	乳幼児健康相談	健康課		
3	子育てひろば事業	子ども家庭支援課		
4	子育て支援事業	子ども家庭支援課		
5	家庭教育学級	社会教育課		
6	おはなし会	社会教育課（図書館）		
7	子ども読書活動推進事業講演会	社会教育課（図書館）		
8・9・10	ブックスタート事業	健康課・子ども家庭支援課・社会教育課（図書館）	25	
(2) 小・中学校教育の充実				
11	特別支援学級の運営	学務課	25	
12・13	教育相談機関の充実	指導室・学務課		
14	適応指導教室の充実	指導室		
15	情報教育の推進	指導室		
16	芸術・技術教育の支援	指導室		
17	スポーツ教育の振興	指導室		
18	教員研修	指導室	26	
19	教育研究支援	指導室		
20	教科指導等の充実	指導室		
21	進路指導の充実	指導室		
22	生徒指導の充実	指導室		
23	学校防災訓練	青梅市立第二中学校		
(3) 家庭・学校・地域の連携				
24・25	P T Aの活動への支援	市民センター・社会教育課	27	
26・27	青少年委員活動	市民センター・社会教育課		
28	協働事業の支援	市民活動推進課		
29	青少年問題協議会	子ども家庭支援課		
30・31	青少年対策地区委員会事業への支援	市民センター・子ども家庭支援課	28	
32	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	社会教育課		
33	放課後子ども教室	社会教育課		
34	職場体験事業	社会教育課（図書館）		
35	図書館と学校図書館との連携事業	社会教育課（図書館）		
36・37	地域人材の活用	指導室・社会教育課		
2 生涯学習の場と機会の拡充			29	
(1) 施設の整備と有効活用				
38・39	学校施設開放	スポーツ推進課・社会教育課	29	
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実				
40	多摩川1万人の清掃大会	清掃リサイクル課	29	
41	河川清掃活動援助	清掃リサイクル課		
42	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課		
43	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課		
44	敬老会	高齢者支援課		
45	観梅市民まつり	商工観光課		
46	後援等協力事業	商工観光課		
47	昭和レトロ商品博物館	商工観光課		
48	青梅赤塚不二夫会館	商工観光課		
49	シイタケ栽培講習会	農林水産課		
50	青梅市農業祭	農林水産課		
51	炭焼き体験教室	農林水産課		
				30

No.	事業名	所管課等	頁
52	成人式	社会教育課	30
53	掌理団体定期演奏会等	社会教育課	
54	市民大学	社会教育課	
55	農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	社会教育課	
56	豊かに生きるための教室・講座等の実施	社会教育課	
57	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	社会教育課	
58	中央図書館講座等	社会教育課（図書館）	
59	中央図書館での工作及び手芸教室	社会教育課（図書館）	
60	中央図書館での上映会	社会教育課（図書館）	
61	展示・普及事業	文化課（郷土博物館）	
62	文化財の調査・保護・活用	文化課（郷土博物館）	32
63	文化財の普及・啓発	文化課（郷土博物館）	
64	吉川英治記念館の運営事業	文化課（吉川英治記念館）	
65	展示・普及事業	文化課（美術館）	33
66	明るい選挙推進講演会	選挙管理委員会	
67	親子農業体験会	農業委員会	
68	蛭を見るタベ	商工観光課・青梅市観光協会	
69・70	生涯学習フェスティバル（釜の淵新緑祭）	社会教育課・文化課	
(3) ともに生きるための学習機会の充実			
71	国際交流活動支援	秘書広報課	34
72	通訳ボランティア	秘書広報課	
73	平和の写真展の開催	市民安全課	
74	男女平等講座の開催	市民活動推進課	
75	女性の就業支援	市民活動推進課	
76	老壮大学	市民センター	
77	社会を明るくする運動	福祉総務課	
78	家庭介護DVDの貸出し	高齢者支援課	
79	認知症サポーター養成講座	高齢者支援課	
80	家族介護教室	高齢者支援課	
81	手話講習会事業	障がい者福祉課	35
82	点字図書給付事業	障がい者福祉課	
83	身体障がい者自動車運転教習事業	障がい者福祉課	
84	相談支援事業	障がい者福祉課	
85	意思疎通支援事業	障がい者福祉課	
86	青梅市障がい者サポートセンター事業	障がい者福祉課	
87	中等度難聴児発達支援事業	障がい者福祉課	
88	ともに生きるための教室・講座の企画運営	社会教育課	
89	生涯学習まちづくり出前講座	社会教育課	
90	国際理解講座	青梅佐藤財団・社会教育課	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実			
91	介護予防講演会	高齢者支援課	36
92	介護予防教室	高齢者支援課	
93	おうめ健康まつり	健康課	
94	健康教育	健康課	
95	健康相談	健康課	
96	おうめ健康塾	総合病院管理課	
97・98	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	スポーツ推進課・社会教育課	37
99	各種体操教室	スポーツ推進課	
100	青梅マラソン大会	スポーツ推進課	
101	有酸素運動普及事業	スポーツ推進課	
102	スポーツ・レクリエーションフェスティバル	スポーツ推進課	
103	市民体育大会	スポーツ推進課	
104	奥多摩溪谷駅伝競走大会	スポーツ推進課	
105	屋内温水プール開放事業	スポーツ推進課	

No.	事業名	所管課等	頁	
106	東京2020大会に向けた気運醸成事業	スポーツ推進課・社会教育課	38	
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実				
107	広聴活動	市民安全課	38	
108	交通公園日曜映画教室	市民安全課		
109	交通公園交通安全教室	市民安全課		
110	交通安全講習会	市民安全課		
111	セーフティ教室（交通事故再現方式）	市民安全課		39
112	専門相談事業	市民安全課		
113	パネル展等(消費者知識習得・被害防止)	市民安全課		
114	消費者相談	市民安全課		
115	消費生活講座等	市民安全課		
116	市民のくらし展	市民安全課		40
117	環境月間	環境政策課		
118	親水事業	環境政策課		
119	ヤマメの飼育体験教室	環境政策課		
120	動物愛護週間	環境政策課		
121	フードドライブ	清掃リサイクル課		
122	ごみ処理施設見学会	清掃リサイクル課		
123	市内一斉美化デー	清掃リサイクル課		
124	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスター&キャッチフレーズコンクール	清掃リサイクル課		
125	ごみ減量講座	清掃リサイクル課		
126	梅の里再生に関する学びの機会の提供	梅の里再生担当	41	
127	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課		
128・129	護美拾い合戦	清掃リサイクル課・スポーツ推進課		
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から			41	
(1) 地域コミュニティ活動への支援				
130	ぶらっとフォーム推進ワークショップ	企画政策課	41	
131	総合防災訓練	防災課		
132	防災ハンドブックの更新・配布	防災課		
133	市民活動災害補償制度	市民活動推進課		
134	自主学习グループ支援	市民センター		
135	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	市民センター	42	
136	環境美化大会	清掃リサイクル課		
137	資源回収の奨励	清掃リサイクル課		
138	地区市民運動会等支援	スポーツ推進課		
139	総合文化祭	社会教育課		
140	クリーン活動	青梅市立第一中学校		
141	多摩川1万人清掃活動	青梅市立第一中学校		
142	地域防災訓練	青梅市立第二中学校		
143	地域清掃	青梅市立第二中学校		
144	自治会運動会への参加	青梅市立第二中学校		
145	多摩川1万人の清掃大会への参加	青梅市立第二中学校		
(2) 地域人材の育成と活用				
146	防災リーダーの育成	防災課	43	
147	子ども会ジュニアリーダー講習会	市民センター		
148	子ども会育成指導者講習会	市民センター		
149	地域の特性を生かした事業	市民センター		
150	緑地管理ボランティア	公園緑地課		
151	介護予防リーダー養成講座	高齢者支援課	44	
152	シルバーマイスター制度	高齢者支援課		
153	吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	商工観光課		
154	青梅市森林ボランティア育成講座	農林水産課		

No.	事業名	所管課等	頁
155	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進課	44
156	青少年リーダー育成研修会事業	社会教育課	
157	講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	社会教育課	45
158	芸術文化奨励賞	社会教育課	
159	おはなし学習会	社会教育課（図書館）	
160	絵本のべんきょう会	社会教育課（図書館）	
161	合同企業説明会 i n 青梅	商工観光課・青梅商工会議所	
4 学習情報提供と学習相談の充実			46
(1) 学習情報提供の充実			
162	「広報おうめ」への行政情報等掲載	秘書広報課	46
163・164	市ホームページへの行政情報等掲載	秘書広報課	
165	土砂災害ハザードマップの作成	防災課	
166	男女平等情報紙	市民活動推進課	
167	市民センターだよりの発行	市民センター	
168	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	市民税課	
169	生涯学習だよりの発行	社会教育課	
170	社会教育事業の学校への周知	社会教育課	
171	図書館報の発行	社会教育課（図書館）	
172	ブックリストの配布	社会教育課（図書館）	
173	分館図書館だよりの発行	社会教育課（図書館）	47
(2) 学習相談の充実			
174	生涯学習相談	社会教育課	47
5 生涯学習推進体制の確立			48
(1) 推進体制づくり			
175	職員研修受講支援	職員課	48
176	生涯学習推進本部	社会教育課	
177	生涯学習推進市民会議	社会教育課	
(2) 基盤づくり			
178	市民企画講座の募集	社会教育課	48
179	アンケートの実施	社会教育課	
180	学習支援体制の構築	社会教育課	

第2章

計画の進捗状況調査報告書

計画の進捗状況調査報告書

調査内容 事業内容と進捗状況

1 令和4年度取組状況

2 担当課評価

評価記号	評 価	評 価 基 準
◎	順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的で優れた取組を行った ・ 大きな成果を上げた ・ 課題や問題点は一つもない
○	おおむね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な取組を行った ・ 一定の成果を上げた ・ 大きな課題や問題点はない
△	一部困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行った ・ 多少の成果を上げた ・ 課題や問題点がある
×	困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行わなかった ・ 取組を行ったが成果は上がらなかった ・ 大きな課題が残った
—	事業終了 隔年実施 中止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

事業計画	事業数	◎	○	△	×	－
1 生涯学習の基礎づくり	37	0	35	0	0	2
(1)乳幼児教育・家庭教育の充実	10	0	10	0	0	0
(2)小・中学校教育の充実	13	0	11	0	0	2
(3)家庭・学校・地域の連携	14	0	14	0	0	0
2 生涯学習の場と機会の拡充	92	4	68	6	1	13
(1)施設の整備と有効活用	2	0	2	0	0	0
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	31	1	19	3	1	7
(3)ともに生きるための学習機会の充実	20	0	18	2	0	0
(4)健やかに生きるための学習機会の充実	16	2	12	1	0	1
(5)暮らしやすい環境のための学習機会の充実	23	1	17	0	0	5
3 自主活動の支援	32	0	22	0	0	10
(1)地域コミュニティ活動への支援	16	0	8	0	0	8
(2)地域人材の育成と活用	16	0	14	0	0	2
4 学習情報提供と学習相談の充実	13	0	12	0	0	1
(1)学習情報提供の充実	12	0	11	0	0	1
(2)学習相談の整備	1	0	1	0	0	0
5 生涯学習推進体制の確立	6	0	6	0	0	0
(1)推進体制づくり	3	0	3	0	0	0
(2)基盤づくり	3	0	3	0	0	0
合 計	180	4	143	6	1	26
割 合 (%)	100	2.2	79.4	3.3	0.6	14.4

基本的施策

1生涯学習の基礎づくり

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（1） 乳幼児教育・家庭教育の充実	健康課	1 プレママクラス(母親・両親)学級	初産の妊婦とその夫を対象に安心して出産・子育ての準備ができるように学び、親となる心構えを伝え、妊娠中の不安を解消します。	プレママクラス 年7コース 延べ参加者数 139人 両親学級(平日) 4回 72人 両親学級(土曜日) 5回 80人 次年度目標:両親学級では、妊娠・出産、育児への理解を深め、父親になるための自覚を促し、夫婦で協力して取り組んでいくために必要な知識を提供し、育児力の向上と育児不安の解消を図る。また、夫婦で妊娠中の悩みや不安を共有しお互いがサポートできるようになることを目的とする。	○	・引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めた。 ・沐浴の動画を作成し、妊娠届出時や母親学級に参加希望されなかった方に案内した。 ・赤ちゃんのいる生活をイメージしてもらい、参加者による意見交換など有意義な時間を持った。 ・沐浴、着替え等、実技指導を行った。 ・疾患等のある妊婦に対し、個別対応を実施した。
	健康課	2 乳幼児健康相談	健康・栄養・歯科および育児に不安がある乳幼児に対し、小児科医師等が専門的な立場から適切な指導助言を行い、保護者の育児を支援します。	乳幼児健康相談 年12回 相談件数 172件 経過観察健康診査 年12回 相談件数 238件 次年度の目標:母親の育児に対する不安に寄り添い、助言指導を行う。また、心配な妊産婦に対しては、継続的な支援を行う。	○	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染予防に努めた。昨年度に比べ、相談件数が乳幼児健康相談で約1.2倍、経過観察健康診査で約1.4倍増加した。 ・ワクチン接種の普及、感染者数減少とともに、相談件数も増え、乳幼児の発育発達や母親の育児不安等に寄り添うことができた。
	子ども家庭支援課	3 子育てひろば事業	親子の遊びの場と交流の場を提供し、子育てに関すること等日常的で身近な問題について、保護者・子どもから相談を受け、話し相手になります。また、啓発事業を実施します。	・子育て支援センター、東青梅市民センター内「おひさま広場」、河辺市民センター内「トイトイ」、文化交流センター内「にこにこ」、下長瀬自治会館「とことこ」の他、10保育所で実施した。(3保育所が休止) ・身近な地域に子育て中の親子が参加できるふれあいの場を提供した。 ・育児講座を開催。 ・親子参加行事を開催。 ・相談業務を行った。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数の制限などの感染防止対策を講じて実施したが、3保育所が休止となった。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部利用休止や利用人数の制限などの感染防止対策を講じての育児講座などを実施した。 子育て中の保護者へ情報の提供を行うとともに、相談業務で子育てに関する相談を受け、子育て中の保護者の不安を解消することができたと考えている。
	子ども家庭支援課	4 子育て支援事業	市民センター等において、子育てと子どもの健やかな成長を支援する場を提供するとともに、講座等を行います。	・市内の市民センター、子育て支援センターで事業を実施した。 ・手遊び型の事業では和室や会議室などで、絵本や積み木などを使った遊びを行った。 ・体育型では体育館でボールや縄跳びなどを使った遊びを行った。 実施回数 253回 延べ参加人数 2,353人 ・同年齢の乳幼児とその保護者へ、子育て支援講座「親子スキップ教室」を実施した。 また、体験型イベント「あつまれ！0・1・2・3ちびっこ☆ランド」については、3年ぶりに開催した。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数の制限などの感染防止対策を講じて実施した。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数の制限などの感染防止対策を講じて、市民センターや子育て支援センターで子育ての場を提供することができた。
	社会教育課	5 家庭教育学級	乳幼児から高校生を持つ親を対象に、家庭教育に関する様々なテーマで開催します。	家庭教育講演会 ・第1回 子どもとネット・スマホとの適切な関わり方～SNS・ゲーム依存の実態とその予防・対応をどのようにこなうか～ 実施日 7月9日 参加人数 23人 ・第2回 子どもの未来につながるお金の教育 実施日 9月3日 参加人数 24人 ・第3回 悩んでいませんか？いまどきの思春期の子ども～親と子のすれちがいをなくそう～ 実施日 1月29日 参加人数 20人 今後は共通の目的を持った仲間と出会う会場に集まる形式と気軽に参加できるオンラインを活用した形式を両方実施し、それぞれの特性を活かした講演会を開催したい。	○	その時期に話題になっているテーマを選び、3回の講演会を計画し、参加者の評価も良かった。新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れ、2回を対面開催で行うことができ、より参加者の心に響くような内容となった。
	社会教育課(図書館)	6 おはなし会	絵本の読み聞かせやおはなしの語りなどを行います。	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、4月2日から3月26日まで延べ203回、中央図書館・市民センター・小学校でおはなし会を実施した。 延べ参加人数2,058人 5年度は、各事業を継続するとともに、内容の充実を図る。	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を実施し延べ2,058人の参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	7 子ども読書活動推進事業講演会	子どもの読書活動を推進するための講演会などを実施します。	子ども読書活動推進事業講演会「前沢明枝氏講演会」 11月19日 参加人数47人 5年度は、講演会事業を継続し、子どもの読書活動への理解を啓発する。	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を実施し、47人の参加者を得ることができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	健康課	8	乳幼児健診時において、希望する保護者に対し、絵本の読み聞かせ等の相談とブックスタート・リーフレットの配布を実施します。	対象件数 540件 絵本配布数 525件 次年度の目標:生後4カ月までの赤ちゃんを全戸訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」で、絵本とブックスタート・リーフレットを配布した。引き続き絵本を介して保護者と乳児が触れ合うきっかけを作っていく。	○	絵本により、乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりができた。	
	子ども家庭支援課	9		ブックスタート事業	おむね生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ機会を提供する「こんにちは赤ちゃん」事業で、ブックスタート事業による絵本を配布した。 配布数 525冊	○	乳児のいる家庭に絵本を配布し、乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりをすることができた。
	社会教育課(図書館)	10		健康課との共催で、乳幼児健診時において、絵本の紹介とブックスタートリーフレット「あかちゃんといっしょに」の配布と、中央図書館で行う乳幼児向けおはなし会の案内を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続き実施できなかった。 5年度は、ブックスタート事業を再開し、乳幼児からの読書活動を支援する。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ブックスタート事業は中止になった。 今後の再開に向け、どのような対応が乳幼児に対して必要になるかについて、検討した。	
(2) 小・中学校教育の充実	学務課	11	特別支援学級の運営 児童・生徒の障害に応じたきめ細かな教育を実施していくため、教育環境の整備を図ります。特別支援学級設置校に介護員を配置します。	・教育環境の整備 学習支援、課題改善のための教材などの備品を購入し教育環境の整備を図った。引き続き必要な備品等を購入していく。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)において、児童・生徒の学校生活および学習活動の補助ならびに教員の教育活動を支援するために、児童・生徒数に合わせ配置した(小学校36人、中学校19人)。次年度も児童・生徒数に合わせ適正に配置していく。	○	・教育環境の整備 備品等の購入により教育環境の整備を進めているため。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)に在籍する児童・生徒数に合わせ介護員を配置し、児童・生徒への指導の充実を図っているため。	
	指導室	12	1 教育相談所 幼児・児童・生徒や保護者から、学校生活や家庭における問題、悩みについて相談に応じ、援助・助言を行います。 2 青少年相談室 青少年や保護者から、生活指導や性格、行動等の問題、悩みの相談に応じ、青少年等の非行防止と健全育成を図ります。 3 スクールソーシャルワーカーおよび心理相談員の派遣などにより、青梅市公立学校相談室と教育相談所等の連携を図ります。	1 教育相談所 いじめ問題対策、不登校児童・生徒対策および要保護児童対策等の会議に教育相談所の職員が委員として出席し、連携を図った。 ・相談所における来所相談件数は年間647件で電話相談は43件。面談は、保護者3,034回、子供1,407回で合計4,441回行った。相談件数、面談回数とも増加しているが、引き続き適切に対応していく。 2 青少年相談 相談内容を確認し、東京都教育相談センター等、関係諸機関に繋いだ。 3 9月に学校教育相談推進協議会を開催し、教育相談所相談員と学校の教育相談担当との連携を図った。	○	・スクールカウンセラー連絡会や教育相談研修会に教育相談所の職員が委員として出席し、各関係機関との連携が図れている。 ・青少年の相談については、適切な機関へ繋いでいる。 ・学校教育相談推進協議会の開催により、学校教育相談についての理解を深めるとともに、学校と教育相談所との連携を深めた。	
	学務課	13	1 ふれあい学級 不登校児童・生徒に対し、生活習慣の確立および学習等の援助を行い、在籍校への復帰を支援します。 2 外国人児童・生徒学級 外国人児童・生徒および帰国児童・生徒に対し、日本語の指導を行い、安心して学校生活を送れるよう援助します。	・教育相談所 いじめ問題対策、要保護児童対策等の会議に教育相談所の職員が委員として出席し、連携を図った。 ・相談所における来所相談件数は年間647件で電話相談は43件。面談は、保護者3,034回、子供1,407回で合計4,441回行った。相談件数、面談回数とも増加しているが、引き続き適切に対応していく。 ・青少年相談 相談内容を確認し、東京都教育相談センター等、関係諸機関に繋いだ。	○	・各種会議に教育相談所の職員が委員として出席し、各関係機関との連携が図れているため。 ・青少年相談については、適切な機関へ繋いでいるため。	
	指導室	14	1 適応指導教室(ふれあい学級) 在籍校との連携を図りながら不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や調理実習(校外学習)を各1回実施した。 2 外国人児童・生徒学級 在籍校において、児童2人に対し通訳等の支援を週2回の指導を実施した。 外国人児童・生徒学級において、3名に対して指導した。	1 適応指導教室(ふれあい学級) 在籍校との連携を図りながら不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や調理実習(校外学習)を各1回実施した。 2 外国人児童・生徒学級 在籍校において、児童2人に対し通訳等の支援を週2回の指導を実施した。 外国人児童・生徒学級において、3名に対して指導した。	○	保護者の不安な気持ちに寄り添い、事前の面談の充実や体験活動の充実を図った。また、児童・生徒の実態に応じて支援ができるよう、在籍校との情報共有を密にした。 日本語の指導をとし、学校生活をサポートした。	
	指導室	15	児童・生徒の情報活用能力を育成し、確かな学力の向上を図るために、教科指導におけるICTの活用を推進します。	ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の推進を図った。 国のGIGAスクール構想を踏まえ、各小中学校のICT環境の整備を行った。 情報教育推進委員会を年間3回開催し、ICTを活用した取組を全小中学校で共有した。	○	ICT環境の充実を図り、ICTを活用した授業改善を行った。	
指導室	16	「小学校造形作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校技術・家庭科作品展」を開催し、児童・生徒の豊かな心身の陶冶や芸術・技術能力の向上を図るとともに、広く市民に教科への理解を得ます。	児童・生徒が授業で制作した作品を、小学校はネットまぐろセンター、中学校は青梅市立中央図書館を会場に、期間を限定して展示を行った。開催期間中は、広く一般に公開した。	○	小学校は、新型コロナウイルスの影響により2年ぶりの開催となったが、開催規模や実施期間を適切に検討し、充実した行事とすることができた。 中学校美術作品展、技術家庭科科作品展については、平日を含め、多くの方に来場していただき、学習の成果を披露することができた。		

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	17	スポーツ教育の振興	「中学校陸上競技大会」「中学校球技大会」「中学校駅伝大会」の開催を通して、精神力や体力を磨けるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校陸上競技大会」 令和元年度終了 ・「中学校球技大会」 令和元年度終了 ・「中学校駅伝大会」 令和元年度終了 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止。 ・令和3年度に当行事の廃止を決定。 	-	実施していないため、評価せず。
	指導室	18	教員研修	教員の資質や能力の向上を図るため、職層や教職経験に応じた研修、専門的研修を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・校長研修 1回 ・副校長研修 1回 ・教務主任会 5回 ・生活指導主任会 11回 ・若手教員育成研修1年次 10回 ・若手教員育成研修1年次・1日研修1回 ・若手教員育成研修2年次 3回 ・若手教員育成研修3年次 3回 ・中学校進路指導主任会 2回 ・新任主幹教諭研修 1回 ・人権教育研修 5回 ・学校教育相談研修 1回 ・情報セキュリティ研修(未受講者対象研修) 3回 ・情報セキュリティ研修(管理職等対象研修) 2回 ・特別支援教育理解研修 1回 ・教育経営研修 1回 ・情報教育推進委員会 2回 ・水泳指導研修 1回 ・普通救命講習 1回 ・教育課題研修 2回 ・中堅教諭等資質向上研修Ⅰ 8回 ・特別支援教育コーディネーター研修 2回 ・外国語教育担当者連絡会 3回 ・柔道(武道)研修 1回 	○	<p>集合型の研修を基本とし、市内の新型コロナウイルスのまん延状況に応じてオンライン開催等で行った。</p> <p>職層や教職経験に応じた研修等を実施することにより、教員の資質向上が図れた。</p>
	指導室	19	教育研究支援	教育課題の解決、教科指導法の改善等の研究を支援し、より良い学校教育を目指します。 ・研究指定校、教育研究会、校内研修に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校等への支援 ・小・中学校合わせて5校の研究を支援した。 ・教育研究会への支援 ・校内研修に対する支援 	○	各校の研究を支援し、教員の資質向上が図れた。また研究指定校の発表および成果を全小・中学校で共有できた。
	指導室	20	教科指導等の充実	1 新学力向上5カ年計画にもとづき、「やる気、根気、考える」をキーワードに、指導の充実を図ります。 2 「青梅市いじめ防止マニュアル」およびいじめ問題対策委員会調査部会からの提言にもとづき、いじめの根絶に向け、人権教育・道徳教育を充実します。 3 外国人英語指導助手(AET)を活用し、小・中学校の英語教育、国際理解教育を推進します。 4 地域社会・地域環境の理解を深め、社会の一員としての自覚を育てます。 5 児童・生徒の学力向上を図るため、市民センター等を拠点として、民間委託の指導者による土曜日補習教室を実施します。	<p>学力向上推進委員会にて、令和5年度から令和9年度までの新たな学力向上5カ年計画について協議し、「継続」「定着」「追究」というキーワードのもと、事業内容・数値目標等の見直しを図った。</p> <p>各校の学力向上推進プランの実現に向けて、授業改善を図るための方策について協議した。</p> <p>人権教育推進委員会を年5回・道徳教育推進委員会を年3回実施し、人権教育・道徳教育の推進に努めた。人権教育推進校の発表について、市内全小中学校で共有した。</p> <p>年3回外国語教育担当者連絡会を開催し、小中学校間の連携や授業改善について協議した。</p> <p>青梅学推進委員会を開催し、地域の人材や地域の環境について理解を深めるための取組について協議・研修を行った。</p> <p>中学3年生向け高校受験対策事業「スタディ・アシスト」を民間業者に委託して実施した。</p>	○	<p>学力向上施策について、教員の理解が深まった。また、ICTの活用を含め、児童・生徒の学習意欲を高めるための手立てについて協議し、授業改善を図ることができた。</p> <p>人権教育推進教員が中心となり、各校において人権教育についての教育を充実させた。</p> <p>小中学校間の連携について円滑化を図ることができた。またAETとの綿密な打ち合わせを行い、国際理解教育の推進を図った。</p> <p>「青梅学」を各校の教育課程に位置付け、それぞれの地域の特性を生かした授業が実施された。</p> <p>スタディ・アシスト事業を民間業者へ委託して実施し、大幅な成績の向上が見られたとともに、多数の参加者が志望校へ合格した。</p>
	指導室	21	進路指導の充実	生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育てます。	マイ・キャリアノートを作成し、総合的な学習の時間等を活用して、児童・生徒が自己の将来について考える機会を設定した。また、中学校では、第2学年で職場体験学習や職業講話を実施した。	○	マイ・キャリアノートの活用や職場体験・職業講話の実施等により、児童・生徒に自己の将来や生き方について考えさせ、意識を向上させることができた。
	指導室	22	生徒指導の充実	豊かな人間性と社会性を育成するために、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、公共心をばくくみます。	生活指導主任会(小・中学校合同)を年間5回実施し、情報交換や連携を深めるとともに、第3回には講師を招聘し、生活指導への理解を深めた。 中学校生活指導主任連絡協議会を年間6回実施し、警察や登校支援室等関係機関との情報交換や連携について協議した。	○	生活指導主任会や中学校生活指導主任連絡協議会での情報交換や他機関との連携を図りながら、豊かな人間性と社会性を育む取組を推進することができた。
	青梅市立第二中学校	23	学校防災訓練	地域の消防団や消防署と連携し、実践的な防災訓練を行い防災の意識を高めます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。	-	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	24	PTAの活動への支援 会議室の提供、用具・備品等の貸出しなどを行います。 小・中PTAが主催する講演会や研修視察等に対する援助を行い、子どもたちの健全な成長を目指して、親と教師が協力して家庭・学校・地域の教育力の向上を図ります。	PTAが主催する事業に会議室を提供するなどの支援を実施した。(梅郷C) ・【今井C】PTAが主催する会議等に会議室の提供を行った。	○	PTAへの会議室の提供などの支援体制は継続して実施したため。
	社会教育課	25		・小学校・中学校のPTAへ感謝状の贈呈や総会会場確保などを行い活動を支援した。 引き続き支援可能な範囲での支援を行っていく。	○	PTA活動の支援を継続的に実施したため。
	市民センター	26	青少年委員活動 青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行います。	・青少年の指導育成事業として、ジュニアリーダー講習会を計画はしたが、募集定員に達しなかったため中止した。(新町C) ・青少年委員の協力のもと、青少年の指導育成事業として、木工やポッチャの体験教室を行った。また、講演会を開催し子供のゲーム依存に関する講演を行った。地域の安全を守る会の構成団体として地域のパトロールに参加した。(梅郷C) ・青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施した。(東青梅C) ・青少年対策第10支会地区委員による、ジャガイモ掘り体験、チョークアート教室、ポッチャ体験会を実施した。(河辺C) ・【今井C】 ①青少年対策第11支会地区委員によるポッチャ体験会を開催。 ②青少年対策地区委員会と自治会連合会第11支会の共催による薬物乱用防止の映画ならびに青梅警察署員による講演を実施。	○	コロナウイルス感染症等の影響はあったが、青少年が地域で健やかに成長できるよう、地域等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行ったため。
	社会教育課	27		・定例会12回(毎月第二火曜日) ・青少年リーダー育成研修会への協力 自主事業の実施	○	各地域において学校行事等に協力し青少年活動の指導を行った。 また、定例会を開催し、各地域での活動報告や自主事業の企画等を話し合った。 自主事業を実施した。 青少年委員の周知を図るため広報紙「みらい」を発行した。
	市民活動推進課	28	協働事業の支援 行政と市民活動団体との協働事業を、青梅ボランティア・市民活動センターと連携して支援・推進します。	・青梅ボランティア・市民活動センターは、ボランティア・市民活動団体に関する総合的な相談窓口として、情報の収集および発信、コーディネート等、行政と市民活動団体との協働を推進している。 ・月1回情報交換会を行い、協働事業や市民活動団体の活動状況等について情報共有した。 ・市民提案協働事業募集の周知等を青梅ボランティア・市民活動センターからも行うなどの連携を図った。 ・青梅ボランティア・市民活動センター職員が青梅市協働事業市民推進委員会委員として、協働事業の評価等について協議を行った。 ・協働の担い手となりうる人材の掘り起こしのため、「はじめよう！ボランティア活動の第一歩」と題してボランティア活動に興味がある方対象に、青梅ボランティア・市民活動センターと協働で講座を実施した。 ・次年度についても、連携して協働事業の支援を継続する。	○	青梅ボランティア・市民活動センターと連携し、様々な事業を通じて、協働事業の推進を図ることができた。
子ども家庭支援課	29	青少年問題協議会 青少年の健全育成を目指して青少年健全育成基本方針の策定や様々な支援協力を行います。 「健全育成チラシ」や「休みのしおり」の作成などを行います。	・「青少年健全育成チラシ」を作成し、小中学校、各市民センター、関係機関等に配付するとともに、全ての自治会に回覧を依頼した。また、「休みのしおり」を3回発行し小中学校の児童・生徒に配布した。 ・カラオケ店、ゲームセンター、コンビニエンスストア等の経営者に対し青少年の非行防止と健全育成への協力について依頼し、青少年の健全育成環境整備対策に努めた。 ・協議会を以下の内容により2回開催した。 【実施日：7月7日】 令和3年度青少年健全育成活動状況について 令和4年度青少年健全育成活動計画について 令和4年度青少年健全育成環境整備対策について 【実施日：2月9日】 令和4年度青少年健全育成活動状況について 青少年健全育成チラシについて ・策定した青少年健全育成基本方針(令和4～6年度版)を周知する。	○	協議会を対面開催で行い、各委員(団体)による直接意見等の交換が行われ、青少年指導、育成等に必要関係行政機関相互の連絡調整を図ることができた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	30	青少年の健全育成を目指して実施する様々な青少年対策事業に支援協力を行います。 「健全育成チラシ」の配付、「健全育成標語看板」の作製などを行います。	・青少年対策事業の事務的支援および会議室の提供、備品の貸出等について支援した。(各市民センター) ・青少年健全育成チラシの作成および地区内自治会、子ども会育成会への配布について協力した。(各市民センター) ・健全育成標語を提案し、のぼり旗の作製と掲示に協力した。(各市民センター) ・自転車点検会、霞川清掃、第八支会ハイキングおよびポッチャ体験会を実施した。第八支会主催のささえあいフェスティバルに参加し、模擬店の出店により地域の方との交流を深めた。青少年健全育成チラシを作成し、地区内自治会、子ども会育成会に回覧・配布した。(東青梅C) ・健全育成標語看板清掃を実施した。(河辺C)	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかった事業があるものの、青少年対策事業の事務的支援および会議室の提供、備品の貸出等の支援体制は整えていた。また、チラシ配布、のぼり旗の作製等も協力したため。	
	子ども家庭支援課	31	青少年対策地区委員会事業への支援	・各地区における青少年の健全育成事業の推進を図るため、青少年対策地区委員会に対し、補助金を交付した。 補助金交付決定額計:1,800千円 補助金交付確定額計:1,683千円 ・青少年健全育成チラシを配布した。 ・健全育成標語を4件策定した。「あいさつを 交わすうれしさ 地域の輪」なによりも 家族の会話を 大切に「挨拶が人とながる 第一歩」「子ども達の 才能のばす 親の愛」このうち各地区にて3種までの標語を選び、3本の「のぼり旗」を作成した(これまでの看板をのぼり旗に変更)。 ・青梅市親子ふれあい事業は、種目を綱引きからポッチャに変更し3年ぶりに開催した。 ・令和5年度の親子ふれあい事業についても、ポッチャ大会を実施する。	○	・各青少年対策地区委員会の青少年健全育成事業は、新型コロナウイルス感染症対策のため例年通りの実施が困難である中、各地区工夫を凝らし実施に向け努力した。 ・健全育成標語は、従来の各地区1枚の看板作成を、各地区3本ののぼり旗へと変更し、イベント等で活用できるようにした。 ・親子ふれあい事業については、種目を綱引きからポッチャに変更し3年ぶりに開催することができた。	
	社会教育課	32	子ども会・保護者会等の学習活動に対する支援を行い、青少年の健全育成を図ります。	用具・備品の貸出が行えるよう準備した。	○	用具・備品の貸出を積極的に行ったため。	
	社会教育課	33	放課後子ども教室	スポーツや文化活動やさまざまな体験活動、地域住民との交流活動などを実施します。学ぶ意欲のある子どもに、学習機会を提供します。	計16校で、おうち放課後子ども教室「タやけランド」を実施した。 ・第一小(全36回) 延べ参加人数 1,421人 ・第二小(全47回) 延べ参加人数 912人 ・第三小(全23回) 延べ参加人数 647人 ・第四小(全85回) 延べ参加人数 2,763人 ・第五小(全119回) 延べ参加人数 5,478人 ・第六小(全21回) 延べ参加人数 316人 ・第七小(全106回) 延べ参加人数 1,687人 ・成木小(全36回) 延べ参加人数 445人 ・河辺小(全28回) 延べ参加人数 661人 ・新町小(全21回) 延べ参加人数 499人 ・霞台小(全30回) 延べ参加人数 421人 ・友田小(全32回) 延べ参加人数 921人 ・今井小(全32回) 延べ参加人数 1,542人 ・若草小(全29回) 延べ参加人数 1,427人 ・藤橋小(全26回) 延べ参加人数 948人 ・吹上小(全51回) 延べ参加人数 1,050人 主な活動内容:バドミントン、卓球、サッカー、工作、自主学習ほか	○	新型コロナウイルス感染症感染対策に取り組みながら、スポーツ、文化活動、学習機会の提供など多様な活動を実施することができた。
	社会教育課(図書館)	34	職場体験事業	職場体験学習として市内の中学生、高校生を受け入れ、図書館業務全般を体験します。	6月15日～11月2日の間において、中学生を対象にした職場体験を5回受入れた。 中学校 5校 9人 学校からの依頼にもとづき、5年度も職場体験の受入れを行う。	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、学校からの依頼にもとづき、中学校から、9人の生徒を受け入れた。
	社会教育課(図書館)	35	図書館と学校図書館との連携事業	市内小・中学校の学校図書館に学校図書館司書を配置し、子どもたちの読書活動推進および学習活動の支援を行います。 また、中央図書館1日図書館長や講演会などの事業を実施し、子どもの読書活動を促進します。	東小中学校を除く全小中学校に、学校司書を学校図書館に配置した。 令和4年度からは、小学校は1回6時間、年間40回から60回に増加を図った。また、中学校は1回5時間を6時間に、年間回数を35回から50回に増加を図った。 4月11日から3月22日まで、延べ1,460回の学校支援を行った。 学校連携推進重点校事業については、対象校の河辺小学校に対し、一日図書館長および講演会を実施した。 1日図書館長 10月22日 参加人数4人 菊地玉雲氏講演会 講談「玉川上水物語」(会場:河辺小学校)10月24日 参加人数69人 5年度は、学校司書の派遣および学校連携推進重点校事業を継続実施する。また、学校司書の派遣による効果について検証し、派遣増加について検討する。	○	各校の学校図書館整備や展示などの読書意欲の喚起を行い、延べ1,460回の学校図書館支援を図った。なお、3年度は延べ990回の実施であったので、4年度は年間470回の支援増加が図れ、児童・生徒の読書環境が充実した。 学校連携推進重点校事業では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、1日図書館長および講演会を実施できた。
	指導室	36	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と学校が連携協力し、子どもたちの健全育成に活用します。	新型コロナウイルス感染状況を鑑みながら、対面での地域人材を活用した事業を実施し、地域との連携協力を図った。	○	新型コロナウイルス感染状況を鑑みながらであるが、対面での地域人材を活用した事業を実施することができた。	
社会教育課	37	地域人材の活用	・フォークギター講座(延べ134人)	○	ネットたまぐーセンター利用者からの要望も多く、定員を超える申込みがあった。楽器の技能習熟度は、個人差が非常に大きいため、2班に分かれて指導を行った。多くのボランティアサポートがあり、きめ細かい指導をすることができた。また、受講者のうち希望者は、11月27日に開催されたネットたまぐーセンターあそびばART2022において発表会を行った。 音楽を通じた市民の交流機会の創出ができた。		

2 生涯学習の場と機会の拡充

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(1) 施設の整備と有効活用	スポーツ推進課	38	学校施設開放	生涯スポーツの普及・発展、市民の健康と体力の増進を図るため、小・中学校の体育施設(校庭・体育館)を市民スポーツ団体の利用に供します。 生涯学習推進のため、小・中学校の音楽室を団体やサークルの利用に供します。	利用団体:183団体 利用回数:5,221回 利用人数:119,103人	○	新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、コロナ禍以前のように、各体育施設を開放することができたと評価する。
	社会教育課	39			登録団体:今井小学校1団体、第二中学校0団体 利用回数:今井小学校1回、第二中学校0回 利用人数:今井小学校20人、第二中学校0人	○	利用団体登録の広報を、広報おうめへの掲載だけでなく、HPへの掲載も行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり利用実績は今井小学校1回のみだった。
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	清掃りサイクル課	40	多摩川1万人の清掃大会	8月第1日曜日に多摩川の一斉清掃を行います。	8月7日に市内釜の淵公園において多摩川1万人の清掃大会を規模縮小し、実施した。 74名が参加し、100kgのごみが集まった。	○	規模を縮小した開催となったが、たくさんの方に参加いただけ、多くのごみを回収することができた。
	清掃りサイクル課	41	河川清掃活動援助	多摩川以外の河川で行われる清掃活動への消耗品の援助を行います。	成木川、霞川等の河川における自治会等の清掃活動に対し、使用する軍手、ごみ袋を提供した。	○	河川における自治会等の清掃活動への支援を行うことにより美化活動の啓発を図った。
	高齢者支援課	42	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者が趣味を広げ、教養を深められるよう各種講座を開催します。活動の成果を発表する場として、高齢者教養講座合同文化祭を開催します。 (対象:60歳以上の方)	高齢者教養講座を7講座実施した。 詩吟 年24回 延べ224人参加 毛筆 年24回 延べ222人参加 ペン習字 年25回 延べ226人参加 茶道 年23回 延べ298人参加 華道1 年19回 延べ185人参加 華道2 年19回 延べ90人参加 合唱 年31回 延べ1,053人参加 また、高齢者教養講座合同文化祭として、10月28日に市役所2階姉妹都市コーナーにて合唱講座ミニコンサートを、10月29日から30日にかけて福祉センターにて各講座の作品展示・発表等を実施した。 次年度については、東青梅1丁目諸事業用地の進展を考慮しつつ、開催を継続する。 ※下記43の事業と統合したことに伴い、華道2および合唱講座を追加。	△	生きがいのある生活や高齢者の外出支援として効果的であり、地域高齢者のふれあい・親睦の場となった。
	高齢者支援課	43	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者の生きがい、健康増進、教養を高めることを目的に、沢井・小曾木保健福祉センターでは、各種教室を開催します。 (対象:60歳以上の方)	令和2年3月31日付で沢井・小曾木保健福祉センターを廃止したことに伴い、令和4年度より上記42の事業に統合した。	-	上記42に統合のため廃止
	高齢者支援課	44	敬老会	75歳以上の方を総合体育館に招待し、式典・演芸を行い、長寿をお祝いします。 (対象:75歳以上の方)	75歳以上の高齢者を対象に敬老会を開催した。 開催日 10月1日(土) 会場 総合体育館 参加者 2,208人	△	地域高齢者のふれあい・親睦の場となっており、発表者や芸能人を見るために参加する高齢者の外出支援にもつながった。 一方、参加率は1割程度であり、開催方法等には課題がある。
	商工観光課	45	観梅市民まつり	平成28年度に梅の再植樹が開始、3月には吉野梅郷梅まつりが復活しました。 中旬に行われる「観梅市民まつり」では、パレードや地元郷土芸能の披露などが行われ、多くの市民が出演者もしくは観客として参加し、おまつりを盛り上げています。	令和4年度の「観梅市民まつり」は、令和5年3月5日(日)に実施し、各イベントも再開されて、観梅市民まつりの来場者数は約14,000人だった。 次年度についても継続して開催をし、来場者数増を目標とする。	○	新型コロナウイルス感染症対策の影響により令和元年～令和4年までは中止となっていたが、令和5年は4年振りの実施となり、特段の問題もなく開催をすることができた。
	商工観光課	46	後援等協力事業	青梅市の産業や観光を知り、自然に親しむ機会や参加者同士の交流が図れる機会として、産業観光関連のイベントに協力します。 ・産業観光まつり、カンタンを聞く会	・青梅産業観光まつりは令和4年度においては、市役所駐車場に会場を移し3年ぶりに集客イベントを開催した。 ・「カンタンをきく会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	-	・新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度～3年度は集客イベントを開催することはできなかったが、会場を市役所駐車場に移すことにより感染症対策を施したうえでイベントを開催することができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、「カンタンをきく会」を開催することができなかった。
商工観光課	47	昭和レトロ商品博物館	商店街空き店舗活用推進事業として、平成11年に住江町に開館した博物館。昭和30～40年頃のお菓子や薬などの商品パッケージを中心に、昭和を彩った懐かしい商品文化をお楽しみください。2階には、小泉八雲作の「雪女」と関わりのある資料を展示。	・昭和レトロ商品博物館 入館者数 6,626人	△	令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続き、入館者数の大幅回復とはならなかった。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	商工観光課	48 青梅赤塚不二夫会館	商店街振興事業として、住江町商店街振興組合が、青梅駅周辺商店街の賑わいを創出するため、平成15年10月に開館。明治時代後期の蔵に昭和を代表する漫画家「赤塚不二夫氏」の原画や貴重な写真などを展示。	令和2年3月末をもって閉館。	-	
	農林水産課	49 シイタケ栽培講習会	農業への理解を深め、収穫の喜びを体験していただくための講習会を開催します。	開催日:2月25日 参加者数:48人 内容:ほだ木の配付と育成管理指導 次年度目標 定員を超える申し込みがあり、大変好評なイベントであるため、引き続き実施していきたい。	○	感染症対策のため、ほだ木の穴あけや種ゴマの打ち込みは行わず、密にならないようほだ木の配付と育成管理指導だけ実施した。
	農林水産課	50 青梅市農業祭	市内の農畜産物の展示や直売などにより、農業への理解と関心を深めてもらうとともに、参加者同士のふれあいの場を提供します。	農業祭の実施だけではなく、昨年度に引き続き、新規就農者による直売会も実施した。 開催日:11月6日、18日、23日…農業祭 場所:青梅市役所、JA西東京かすみ直売センター 日付:12月7日、1月23日…新規就農者 場所:青梅市役所 次年度目標:市民の方からは大変好評を得ているため、引き続き実施したい。	○	市の広報や公式LINEを用いて周知することで、地元農産物を購入する機会を多数の市民に提供することができた。
	農林水産課	51 炭焼き体験教室	豊かな緑、豊かな水の原点は森にあることに着目し、炭焼きの実践や木々の観察、木工等総合的な自然体験学習を行います。	森林ボランティア育成講座の講座内容から、令和3年度実施せず。	-	実施していないため、評価せず。
	社会教育課	52 成人式	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励まします。 1月第2月曜日(成人の日) 総合体育館ホール	実施日 1月9日 会場 総合体育館 出席者数 933人 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入り口での検温・消毒を実施しながら、1部制で行った。タイムカプセル作品、中学校の先生からのビデオレターを上映した。	○	新型コロナウイルス対策を行いながら、感染症拡大が発生する前の方式である1部制で実施ができた。
	社会教育課	53 掌理団体定期演奏会等	・青梅児童合唱団定期演奏会 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 ・青梅市民合唱団定期演奏会 ・ファミリーコンサートミニコンサート	・青梅児童合唱団定期演奏会 9月18日 会場 福生市民会館 観客数 148人 ・青梅市民合唱団定期演奏会 10月9日 会場 福生市民会館 観客数 380人 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 12月25日 会場 福生市民会館 観客数 100人 ・ファミリーコンサート 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 ・ミニコンサート 青梅児童合唱団 8月8日 観客数 54人 青梅市民合唱団 8月22日 観客数 73人	○	各掌理団体の定期演奏会を行い、日頃の練習の成果を発表することができた。一部の演奏会では観客数が少なかったため、今後は周知等を工夫する必要がある。 3団体合同のファミリーコンサートについては、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催できなかった。
	社会教育課	54 市民大学	人文・社会科学・自然科学・産業技術・芸術文化・市民生活・国際関係等の中から現代的課題に対応する学習機会を提供していきます。	実施なし。	-	
	社会教育課	55 農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	野菜の栽培や収穫、調理までの作業を体験し、農作業への関心を持ち理解を深めることを目的に、半年間の体験教室を行います。ふれあいまつりに参加し、野菜の販売体験を行います。 ・東京都農林水産振興財団・青梅食育クラブ共催事業	農業・食育体験教室を実施し、農業や食育について学んだ。全9回の講座を実施した。また講座の中で、文化祭での野菜の販売体験を行った。 農業・食育体験教室 延べ参加人数 370人 新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されたため、食育体験や牛のふれあい体験でのアイスクリーム調理などを充実していく。	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、すべての教室を開催することが出来た。また、野菜販売会では、過去最高額の売り上げを達成した。
	社会教育課	56 豊かに生きるための教室・講座等の実施	趣味を広げ、知識・教養を深め、参加者同士の交流を広げるため、人生を豊かにする教室・講座等を開催します。	・飛び出せ！夏のサイエンスキッズ2022 3講座(50人) ・科学っておもしろい！善ちゃんのサイエンスショー(343人) ・国際理解講座公開講座「柳田理科雄先生講演会」(150人) ・キッズ☆体験教室4講座(67人) ・飛び出せ！サイエンスファミリー科学の最先端を見よう！パスツアー(42人) ・渡邊學而の名曲へのお誘い(623人) ・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化ワークショップ)(293人) ・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化キャラバン)(142人) 市民映画会 ・そして父になる(174人) ・ナミヤ雑貨店の奇蹟(176人) ・青い山脈(120人) ・シング(105人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 今後も様々な講座をバランス良く企画する。	○	幼児教育から成人教育まで幅広く行い、おおむね順調であると判断した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課	57 16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	映写機の操作方法、映写方法、映写会場の作り方などを学ぶ講習会を実施します。	・ビデオプロジェクター操作講習会 11月18日実施 計8人修了 ・16ミリ発声映写機操作講習会 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止	○	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、ビデオプロジェクター操作講習会を実施することができた。
	社会教育課(図書館)	58 中央図書館講座等	図書館の広報と利用者サービスの拡充を図るため、原画展や講演会などを実施します。	・市民の教育と文化の向上を図るための学習機会を提供するため、次のとおり各事業を実施した。 ○展示 ・視聴覚コーナー資料展示(2階フロア) 4月1日～3月31日 8回 ・ハンディキャップコーナー資料展示(2階フロア) 4月1日～3月31日 5回 ・資料展示(3階フロア) 4月1日～3月31日 56回 ・児童コーナー資料展示(3階フロア) 4月1日～3月31日 39回 ・資料展示(4階フロア) 4月1日～3月31日 14回 ・分館資料展示(9分館) 4月1日～3月31日 444回 ○青梅市図書館を使った調べる学習コンクール ・応募作品数 小学生の部:698作品 中学生の部:64作品 ・表彰式 12月3日 ・百科事典を使ってみよう 7月16日 2回 参加人数17人 ・調べる学習相談窓口 7月23日～8月7日 10回 参加人数32人 ○釜の淵新緑祭おはなし会 5月15日 参加人数41人 ○朗読会 ・この指とまれ!朗読会 5月21日 13人 ・朗読で楽しむ古典の世界「今昔物語集と芥川龍之介」 11月20日 参加人数37人 ○利用者懇談会 3月19日 参加人数1人 ○学校図書館ボランティア ・修理講習会(会場:河辺小学校) 11月22日 参加人数8人 5年度は、既存事業の継続実施を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、図書館の展示、青梅市図書館を使った調べる学習コンクール等を開催し、図書館や図書に親しむ機会を提供できたことにも多数の参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	59 中央図書館での工作及び手芸教室	工作などを通じて手作りの楽しさ、創造することのおもしろさを体験する各種教室を実施します。	・中央図書館工作教室 8月5日～8月6日 2回 参加人数19人 ・分館工作教室(うめこの時間ワークショップ) 12月18日 参加人数10人 5年度は、既存事業の継続を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。	○	工作教室は対面と基本とする事業であるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら実施し、合計29人の参加者を得た。
	社会教育課(図書館)	60 中央図書館での上映会	中央図書館多目的室において、映画会を行います。	・中央図書館映画会 4月24日～3月26日 12回 参加人数371人 ・はじめての上映会 6月12日 1回 参加人数 14人 ・中央図書館子ども映画会 7月31日～3月26日 3回 参加人数 78人 ・バリアフリー上映会 12月4日 1回 参加人数 51人 5年度は、既存事業の継続を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、映画会、子ども映画会、バリアフリー上映会のほか、新たに、乳幼児を対象とした「はじめての上映会」を開催し、合計514人の参加者を得た。
	文化課(郷土博物館)	61 展示・普及事業	青梅市の歴史や自然を紹介する常設展のほか、郷土の歴史や文化財などをテーマとした企画展等を年3～4回程度開催します。 また、企画展等に関連した講演会、解説講座を開催します。	○令和4年度取組状況 1 企画展「青梅宿の文人・根岸典則～文芸サロンに集う人々～」 ①会期:4/1～4/3(前年度から継続) ②入館者数:533人 ③内容:江戸時代後期に活躍した青梅宿の文人・根岸典則の出生から没後までの各テーマに沿って、典則の作品や他の文人たちの関連資料を展示 2 企画展「青梅の林業と筏流し～多摩川とともに生きる～」 ①会期:4/16～7/3 ②入館者数:3,311人 ③内容:地場産業として江戸時代から続く青梅の林業と筏流しの歴史について、林業で使用された道具や筏流しに関する古文書などを展示 3 企画展「霞台遺跡～見つけた!青梅・古代のくらし～」 ①会期:7/16～10/2 ②入館者数:2,390人 ③内容:主に平成18年度から令和元年度まで開催した「子ども発掘体験塾」で出土した土器等を展示し、また、これまでの調査で出土した遺物を紹介 4 企画展「生誕200年 齋藤真指の生涯」 ①会期:10/15～1/9 ②入館者数:2,748人 ③内容:勝沼神社の神官や皇国地誌の編纂を手掛けた齋藤真指について、真指が使用したとされる国学の書籍や、自身が作成した地誌草稿などを展示 5 博物館関連講座「郷土の偉人・齋藤真指と明治の碩学・井上頼園」 ①実施日:11/27 ②参加者数:35人 6 企画展「生誕200年齋藤真指の生涯」図録発行(300部) ○次年度目標 令和5年度は常設展に加え、3つの展示事業の実施を予定している。	○	前年度から継続する展示会を除き、4回の企画展等を開催した。 2については、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、前年同時期の展示会と比較して来館者数が増加、アンケートは概ね好評であった。林業をテーマとした企画展は、平成4年以降30年ぶりの開催となったが、来館者から筏流しに関する問合せも多く、関心の高さを感じることができた。 3についても、来館数が増加、アンケートは概ね好評であった。今回の企画展は、平成18年～令和元年度に開催した「子ども発掘体験塾」の成果物を中心とした展示内容であったためか、10代～30代の来館者が多い傾向が見られ、展示を機に遺跡や発掘調査に興味を持ったという声も多かった。 4では、来館数は減少したが、アンケートは概ね好評であった。併せて展示図録の刊行と関連する市史史料集の再販、そして関連講座を開催することができ、青梅の近代史を代表する人物の偉業や周辺への影響を含め、周知することができた。が、アンケートは概ね好評であった。齋藤真指をテーマとした展示は今まで実施したことがなかったが、出生から没後までの生涯や他の文人との交流に関する資料を展示し、人物像にスポットを当てることができた。 また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため見合わせていた関連講座を再開した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	文化課(郷土博物館)	62	文化財の調査・保護・活用	埋蔵文化財の調査を実施するほか、指定文化財の保存事業として、修理補助や報償金の支給を行います。また、指定文化財住宅の公開イベントなど活用に取り組みます。 当初4件の予定が3件追加となり、7件の指定文化財保存修理事業について補助金を支出した。 1 国宝「赤系威鐘」、重要文化財「紫裾濃鐘」美術工芸品保存修理事業 ①工期:5/28～5/31 ②概要:赤系威鐘および紫裾濃鐘の修理、鐘掛け台および残欠類の収納箱の作製 2 重要文化財「木造千手観音立像、木造二十八部衆立像」美術工芸品保存修理事業 ①工期:5/30～3/14 ②概要:木造千手観音立像の修理、木造二十八部衆立像の清掃 3 都指定有形文化財「馬場家御師住宅」修理工事 ①工期:7/1～9/30 ②概要:勝手口の床板修理等 4 市指定有形文化財「下山八幡神社本殿」防災設備工事 ①工期:9/13～3/10 ②概要:火災受信機の移設 5 都指定有形文化財「御嶽神社旧本殿」防災工事 ①工期:2/20～3/20 ②概要:落雷抑制型避雷針およびEPフィルター(避雷器)の設置等 6 都指定有形文化財「銅製鰐口・鉄製俵形賽銭箱」管理工事 ①工期:2/14～3/20 ②概要:武蔵御嶽神社宝物殿の天井裏改修による環境整備 7 市指定天然記念物「石神の大イチョウ」危険枝等剪定 ①工期:3/20～3/27 ②概要:危険枝の剪定 8 都指定有形文化財「旧吉野家住宅」屋根葺き替え修理 ①工期:R3.6.18～R4.9.5 ②概要:経年劣化に伴う屋根葺き替え工事 9 旧吉野家住宅屋根葺き替え工事完成見学会 ①開催日:11/3 ②参加人数:21人 ○次年度目標 令和5年度は、4つの補助事業に加え、旧吉野家住宅の土壁等の修繕や畳の表替えを予定している。	◎	取組状況の1～4の4件の補助事業については、当初の予定通り完了することができた。 1については、赤系威鐘および紫裾濃鐘の劣化が最小限にとどめられ、赤系威鐘に合わせた掛け台を作製することができた。同時に残欠類を整理し、状態の良いものは展示資料として公開できるようにした。 2については、木造千手観音立像の経年劣化が著しい箇所を修理したことで、劣化を最小限にとどめることができた。木造二十八部衆立像については、経年の塵埃等を除去することができた。 3については、破損が最小限にとどめられ、同時に不要な新材を取り除き復元することができた。 4については、火災受信機を神社の境内に移設し、同時に総合盤を新品に交換したことで、経年劣化による誤作動等のリスクを減らすことができた。 取組状況の5については、防災対策のために緊急性の高い事業として、6については、展示保存施設的环境改善に必要な事業として、急遽年度内に取り組んだ。 7については、緊急性の高い事業として、急遽年度内に取り組んだ。この事業により、枯れ枝の落下の危険性を取り除くことができた。 また、武蔵御嶽神社境内にある皇御孫命社玉垣修理については、東日本鉄道文化財団の助成金を活用し、文化財の保存を図ることができた。 8については前年度、茅材等の購入が予定より早く完了し、令和4年4月から開始予定の屋根の葺き替え作業を令和4年2月から実施したため、梅雨の影響を受けず6月に主屋の葺き替え作業を完了した。令和3年度に事業を開始する当初は、令和4年10月の工期完了を予定していたが、葺き替え作業を予定より早く実施することができたため、9月から一般公開することができた。 また、葺き替え工事の記録映像として、ドローン撮影を盛り込んだ動画を製作し、11月3日に開催した屋根葺き替え工事完成見学会にて上映した。本事業を実施したことにより、旧吉野家住宅の屋根の雨漏りが解消し、貴重な文化財を適切に保存・管理する上で有効なものとなった。 さらに、武蔵御嶽神社の「展示用ケースの製作」については、文化観光充実のための国指定等文化財磨き上げ事業の補助金を初めて活用し、ケース内に展示する国宝・重要文化財の美観向上を図ることができた。
	文化課(郷土博物館)	63	文化財の普及・啓発	市内にある文化財等の解説を広報などに掲載します。また、文化財めぐりを実施したり、文化財解説ボランティアの育成などに取り組みます。 ○令和4年度取組状況 ・「青梅市の文化遺産」市広報毎月15日号に掲載 ・「青梅市文化財ニュース」毎月15日発行 ・「文化財保護指導員活動報告書」毎年発行 ・「わがまち青梅講座「秩父鎌倉道を歩く」」 ①実施日:11/26 ②参加者数:11人 ○次年度目標 令和5年度は、引き続き広報おうめ、文化財ニュースおよび活動報告書を活用した普及・啓発事業を予定している。	○	広報記事「青梅市の文化遺産」および「青梅市文化財ニュース」では、毎月、市内の文化財について紹介することで、広く周知を図ることができた。 「わがまち青梅講座」を再開した。 一方、例年実施しているボランティア育成講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施することができなかつたため、評価を「○」とした。
	文化課(吉川英治記念館)	64	吉川英治記念館の運営事業	○令和4年度取組状況 1 展示事業 ①春季展示「生誕130年 吉川英治の初期作品」 (1)会期:4/9～6/26 (2)入館者数:1,530人 ②夏季展示「吉川英治と市所蔵直筆資料展PART II～青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミスト～」 (1)会期:7/2～9/25 (2)入館者数:1,646人 ③秋季展示「『三国志』の世界」 (1)会期:10/1～12/18 (2)入館者数:2,323人 ④新春展示「吉川英治の『吉野村だより』」 (1)会期:1/4～3/26 (2)入館者数:2,080人 2 自主事業 ①ガイドボランティア養成講座 (1)回数:11/20、27、12/11、18 (2)受講者数:12人 ②谷津矢車氏講演会「歴史小説の現在・過去・未来」 (1)会期:3/18 (2)参加者数:24人 ③地域連携事業「五月人形展」 (1)会期:4/29～5/22 (2)入館者数:639人 ④地域連携事業「青梅夜具地展」 (1)会期:10/15～11/27 (2)入館者数:1,496人 ⑤「秋のライトアップと夜間開館」 (1)会期:10/15～10/30 (2)入館者数:100人 ⑥地域連携事業「ひな人形展」 (1)会期:2/18～3/21 (2)入館者数:1,427人 他、各種事業を実施した。 ○次年度目標 令和5年度は季節展示4回、各種普及事業の実施を予定している。	○	公益財団法人吉川英治国民文化振興会より寄付を受けた吉川英治記念館について、令和2年9月に青梅市吉川英治記念館として開館し、3年目を迎えた。 展示事業については、年間4本の季節展示を予定通り開催することができた。 昨年度に引き続き開催した夏季展示「吉川英治と市所蔵直筆資料展PART II～青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミスト～」では、コロナ禍であったが、前年度緊急事態宣言で来館できなかった20～30歳代の女性層が来館し、新たな来館者の開拓に繋がった。 また、企業版ふるさと納税の寄付金を活用し、吉川英治記念館の各種事業を実施することができた。その中でも青梅信用金庫の参加協力を得ながらガイドボランティア養成講座や谷津矢車氏講演会などを開催したことで、市民や地元企業の方々と連携し、吉川英治記念館を盛り上げていくための事業として実施することができた。 また、自主事業については、「五月人形展」、「青梅夜具地展」、「秋のライトアップと夜間開館」、「ひな人形展」、「谷津矢車氏講演会」などを新型コロナウイルス感染対策を講じながら取り組んだ。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	文化課(美術館)	65	展示・普及事業	<p>テーマに沿った特別展や企画展、共催展として年4～5回、美術展を開催します。</p> <p>青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を年4～5回程度展示替えし、紹介します。</p> <p>また、美術館のほかに、市役所2階の展示スペースを活用し、年3回展示替えをし、紹介します。</p> <p>実技講座、美術講演会、ギャラリーガイド等を実施し、美術への関心を深めていただきます。</p>	<p>〇令和4年度取組状況</p> <p><美術展の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展「没後2年 栗原一郎展」1作家49点 会期 4/9(土)～5/29(日) 観覧者数 1,700人 特別展「ふる里の心を描き続けて55年 原田泰治の世界」1作家81点 会期 9/17(土)～11/6(日) 観覧者数 7,700人 館蔵企画展「没後30年 藤本能道展」1作家123点 会期 11/19(土)～1/15(日) 観覧者数 848人 館蔵企画展「共通点を探せ! あなたのお気に入りは何だれ?」38作家64点 会期 2/11(土・祝)～3/26(日) 観覧者数 926人 <p><小島善太郎、藤本能道の作品展示></p> <p>青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を常設展示コーナーに各展覧会会期中に毎回4点程度展示した。市役所2階展示コーナーに小島善太郎、藤本能道の作品を展示した。年3回展示替えを行った。</p> <p><実技講座等の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞講座「ゲストによるギャラリートーク」(一般対象) 講師 栗原道子氏 実施日 4/24(日) 参加者 19人 鑑賞講座「ゲストスピーカーによる講演会とギャラリートーク」(一般対象) 講師 高田瑠美氏(菊池寛実記念 智美術館 学芸員)、橋詰果歩氏(福井県陶芸館 学芸員)、末岡信彦氏(陶芸家)、廣瀬義之氏(陶芸家) 実施日 12/10(土) 参加者20人 実技講座「プラダンをデコってフォトフレームを作ろう」(小学生以上対象) 講師 熊田路子氏 実施日 3/5(日) 参加者 6人 <p>〇次年度目標</p> <p>令和5年度は特別展1回、館蔵企画展1回、共催展1回および常設展ならびに市役所展示を予定する。</p>	○	<p>“美術展については、年間を通じて、さまざまなジャンルや切り口の展覧会を開催することが出来た。</p> <p>特別展においては、館蔵作家である栗原一郎の記念展を開催し、画業を振り返った。また知名度の高い作家である原田泰治の展覧会を開催し、来館者が満足する作品を展示し多くの方々に鑑賞の機会を提供した。</p> <p>館蔵企画展においては、当市ゆかりの作家である藤本能道の展覧会を開催し、色絵陶磁の名品や未完成品などを展示するとともに、収蔵作品の中から共通点を持つ作品を隣り合わせに並べて展示し、お気に入りの作品を見つけ出すユニークな展覧会を実施し、様々な市民ニーズに応えた。小島善太郎、藤本能道作品については、美術館のほか、市役所2階展示コーナーを使用し、展示替えを行うことにより、多くの収蔵作品を市民に紹介した。</p> <p>実技講座等については、開催時期にあわせた企画を検討し、市民に提供することが出来た。</p> <p>鑑賞講座として、作家の家族、学芸員、弟子といった方々のギャラリートーク等を実施し、作家や作品の理解を深めた。</p> <p>実技講座では親子等の参加者に工作の楽しさを体験していただいた。”</p>
	選挙管理委員会	66	明るい選挙推進講演会	<p>明るい選挙を推進していく観点から、明るい選挙推進委員および一般市民を対象に、講演会を開催します。</p>	未実施	×	<p>コロナウイルス感染症拡大防止の観点から</p>
	農業委員会	67	親子農業体験会	<p>田植え・稲刈りといった農作業を体験していただき、市民と市内農業とのふれあいを図ります。</p>	<p>田植え</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月18日実施 参加人数 26組72名参加 <p>稲刈り</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨天のため中止 収穫した米については、参加申込者に配布した。 <p>次年度目標</p> <p>参加者からは大変好評を得ているため、引き続き取り組みたい。</p>	○	<p>田植えは、26組72名が参加し農機具に頼らない、人の手による昔ながらの田植えを経験する機会を設けた。</p> <p>稲刈りは、雨天のため中止。収穫した米を後日精米し配布できた。</p>
	商工観光課・青梅市観光協会	68	蛭を見る夕べ	<p>成木川に発生する蛭の鑑賞会を開催し、保護育成に関する啓発パンフレット等を配布し、蛭の生育する環境についての理解と関心を高めめます。</p>	<p>「蛭を見る夕べ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止した。</p>	—	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、「蛭を見る夕べ」を開催することができなかった。</p>
	社会教育課	69	生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	<p>新緑の釜の淵公園・郷土博物館・旧宮崎家・釜の淵市民館を生涯学習サークルの発表の場とし、楽しいイベントを通じた市民の交流の場とします。</p>	<p>生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2022～</p> <p>実施日 5月14日、15日</p> <p>会場 釜の淵公園、旧宮崎家、文化交流センター</p> <p>延べ参加人数 3,328人</p>	○	<p>これまでの釜の淵公園・旧宮崎家に加えて、文化交流センターを新たな会場とし、34イベントを実施することができた。</p>
	文化課	70			<p>〇令和4年度取組状況</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントを実施することができなかった。</p> <p>〇次年度目標</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら実施に向けて準備する。</p>	—	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントを実施することができなかったため、評価を「-」とした。</p>

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(3) ともに生きるための学習機会の充実	秘書広報課	71 国際交流活動支援	国際交流団体の国際交流事業に対する補助(国際交流基金)等の支援を行い、活動の活性化を目指します。	語学研修事業および文化交流事業を行う市内4団体に対し、国際交流基金を原資とした補助金を交付した。引き続き、国際交流の普及を図るため、国際交流基金を更に多くの市民に周知し、また、有効活用しながら、国際交流活動を支援する。	○	語学講座(ドイツ語、中国語)および国際交流の場として実施している国際交流の広場に対し補助を行い、市民の国際交流の推進の一助となっている。
	秘書広報課	72 通訳ボランティア	青梅マラソン大会参加外国人選手の通訳を、ボランティアの協力を得て、国際的な交流の輪が広がるよう支援します。	語学ボランティア(英語通訳)による支援を、事前受付および青梅マラソン大会当日の2日間行った。引き続き、青梅マラソン大会に参加する外国人選手を通じて、国際交流の輪の拡大を支援する。なお、ポツバルト市民選手団向けのドイツ語通訳は、令和4年度については不要と申し出があったため、通訳対応を行わなかった。	○	外国人ランナーに対し案内補助が必要が積極的に声掛けをし、必要に応じて案内している。
	市民安全課	73 平和の写真展の開催	世界の恒久平和を希求することをテーマとした写真展を開催し、市民が平和について考える機会とします。	2月16日から2月19日まで、青梅市中央図書館において、「自衛隊の国際平和貢献活動における写真展」を、世界連邦運動協会青梅支部と共催で実施した。7月29日から8月12日まで、市役所1階ロビーにおいて、「原爆展～絵と写真で見る広島～」を開催した(展示パネルは、広島平和記念資料館から借用した)。3月1日から3月13日まで、市役所1階ロビーにおいて、羽村市と共催で「東京の空襲資料展」を開催した。	○	各種写真展を通して、市民の平和意識の高揚を図ることができた。
	市民活動推進課	74 男女平等講座の開催	男女平等参画の視点に立った講座を実施します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる開催も含めて男女平等参画の意識啓発のため、各種の啓発講座を開催した。パネル展を市民のくらし展で行った。	○	懸案であったオンラインによる啓発講座を行うことができたほか、来場者の多い市民のくらし展でのパネル展を実施することができたため。
	市民活動推進課	75 女性の就業支援	働く女性の能力開発および就業意欲向上のための講座を開催し、情報提供を行います。	オンラインにより、女性活躍推進講演会「ちょっとしたデジタル化で動きやすさと売上5倍を実現！」を開催したほか、全5回の女性のためのビジネススクールを開催し企業現場における人資育成プログラムを実施した。	○	オンラインにより女性活躍の必要性や具体例を伝える講演会を実施することができたほか、就業意欲向上のための講座を開催し情報提供することができたため。
	市民センター	76 老壮大学	教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講演会・講習会を行います。青梅老壮大学、調布こぶぎ大学、霞老壮大学、梅郷老壮学園、小曾木老壮大学、東青梅老壮大学、河辺老壮大学	・(青梅C)(青梅老壮大学)各種講座等を開催した。参加人数:489人 ・(長淵C)(調布こぶぎ大学)講演会等の行事を開催した。延べ参加人数:422人 ・(小曾木C)(小曾木老壮大学)各種講座等を開催した。参加人数:312人 ・(東青梅C)(東青梅老壮大学)各種講座等を開催した。延べ参加人数:447人 ・(河辺C)(河辺老壮大学)各種講座、講演会を開催した。延べ参加人数:476人 ・(大門C)(霞老壮大学)各種講座等を開催した。延べ参加人数:724人	○	年間の実施回数は、新型コロナウイルス感染症感染防止により減少したものの、ほぼ実施できたため(青梅C)新型コロナウイルス感染症防止対策により、事業計画どおりに年間実施回数を行うことができたため。(長淵C)新型コロナウイルス感染症感染防止対策を行い可能な限り講演会を開き、学生間の交流を図る目的で事業計画どおりに年間実施回数を行うことができたため(小曾木C)
	福祉総務課	77 社会を明るくする運動	人々が互いに助け合い、希望を持って生きることのできる明るい社会を目指して、座談会やチラシの配布など啓発事業を行います。	・7月1日から29日まで本庁舎1階ロビーに啓発ブースを設置 ・7月1日に東青梅駅および市役所周辺で啓発活動 ・市内学校、自治会掲示板、市設等770箇所へポスターの掲示、市庁舎へ横断幕の掲出 ・市内11中学校へ啓発用CDを配布 ・各市民センターでミニ集会実施(次年度目標) 強調月間に合わせ、保護司や地域の中学生とともにJP河辺駅等での啓発活動や各地域での座談会等を開催し、運動のPRと啓発活動を実施する。	○	前年度実施できなかった駅頭活動を実施できたことや、新しく市役所ロビーに啓発ブースを設置し、活動を知ってもらえる機会が増えたため。
	高齢者支援課	78 家庭介護DVDの貸出し	在宅の介護者やボランティアの方々の活動を支援するために、介護等のDVDを無料でお貸しします。	家族介護のためのDVD等の貸し出しを行った。 利用者数 2名 利用本数 7本 次年度についても事業を継続する。	△	利用者数が少なく、DVDが古くなってきている。
	高齢者支援課	79 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職場において認知症の人や家族を支援する、認知症サポーターを養成するための講師を派遣します。また、認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を行います。	認知症サポーター養成研修を以下のとおり実施した。 ・実施回数 13回 ・養成サポーター数 239人 認知症サポーターに対してステップアップ講座を実施した。 ・実施回数 1回 ・受講人数 30名 次年度についても事業を継続する。	○	認知症サポーターを増やし、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりに取り組んだ。認知症サポーターに対してステップアップ講座を実施し、認知症に対してより深い知識と対応方法についての学習の機会を設けることが出来た。
	高齢者支援課	80 家族介護教室	高齢者を介護している家族等を対象として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等の知識・技術を修得する教室を開催します。	介護の日イベントに合わせて講座を開催した。 実施日:11月11日 内容:初めての介護～家族に支援が必要になったら～ ・杖や靴の選び方・歩き方チェック講座 ・歩行補助具の紹介・選び方講座 参加者数:計10人 次年度も継続して開催する。	○	高齢者を介護している方、ご家族やご自身の介護に備えたい方などを対象に、実践に役立つ内容を伝えることができた。
	障がい者福祉課	81 手話講習会事業	福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進するため、手話の初・中・上級講習会を開催します。初・中級講習会は、障害者団体等と協働で実施します。	青梅市聴覚者協会との協働事業として、入門手話講習会および初級手話講習会を実施した。また、青梅市社会福祉協議会が実施する上級手話講習会に補助金を交付した。	○	入門手話講習会(全3回)は31人の受講があり、初級手話講習会(全25回)は25人の受講があった。いずれも定員以上の応募があり、おおむね順調であると判断した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(3) ともに生きるための学習機会の充実	障がい者福祉課	82 点字図書給付事業	視覚障がい者の方に、点字図書を給付し、その活動を支援します。	障がい者のしおりや、市ホームページ等で周知を行ったが、令和4年度は利用がなかった。	△	令和4年度は利用実績がなかったが、視覚障害者への支援のひとつとして、効果的な事業であると認識している。 給付対象者の方への周知方法およびニーズの把握等制度の有効活用対策を講じる必要がある。
	障がい者福祉課	83 身体障がい者自動車運転教習事業	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行います。	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行った。 助成件数 1件	○	自動車教習は例年利用実績があり、心身障害者の社会参加の拡大に効果的な事業であると判断している。
	障がい者福祉課	84 相談支援事業	市の窓口で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで社会生活の自立に向けた支援をします。	障がい者福祉課、青梅市障がい者サポートセンター、青梅市障害者就労支援センターで実施。 ・市役所障がい者福祉課 実利用人数1,186件 ・障がい者サポートセンター 延べ相談件数12,401件 ・障害者就労支援センター 延べ相談件数6,091件	○	市の窓口等で、障害のある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言、また必要に応じ関係機関への橋渡しを行い支援ができた。
	障がい者福祉課	85 意思疎通支援事業	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する行事などに手話通訳者・要約筆記者を派遣します。	障がい者のしおりや、市ホームページ等で周知を行ったが、行事などの開催が見送られることが多かったため、令和4年度は派遣実績がなかった。	○	令和4年度は派遣実績がなかったが、例年利用実績があり、障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮のひとつとして重要な事業と認識している。
	障がい者福祉課	86 青梅市障がい者サポートセンター事業	障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、障がいのある方の創作活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進等を行います。また、障がいのある方やその家族、障がい者団体等が活動する場を提供し、障がいのある方の自立の促進を図ります。	条例・規則に定めた支援を実施した。 ・相談支援 延べ相談件数 12,401件 ・創作活動や生産活動 延べ参加人数 3,332件 ・施設貸出し 延べ利用人数 984件 ・生活支援(パソコン指導・療育指導) 延べ人数 529件	○	相談支援件数が増加している。障害福祉サービスにかかるサービス等利用計画の作成の影響と考える。 本事業により、障害のある方やその家族等への支援を行い、障がい者の自立の促進が図れた。
	障がい者福祉課	87 中等度難聴児発達支援事業	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援します。	身体障害者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援した。 給付件数 1件	○	本事業は、平成25年度からの事業で、手帳の交付対象とならない難聴児に対する支援であり、手帳取得に至らない中等度難聴児の発達支援を行うには効果的な支援制度と判断している。 耐用年数の経過により、既に給付している対象者に再支給することもあるため、制度の継続は不可欠であると判断する。
	社会教育課	88 ともに生きるための教室・講座の企画運営	地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。 高齢者の生きがい、男女平等、人権平和・国際理解、障がい者の学びの場を実現し、地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。	【リモート+市役所】女性向けパワーアップ講座「「イライラをイキイキに〜人生を楽しむためのアンガーマネジメント〜」(21人)	○	リモートや動画配信を活用し、多文化理解や女性の働き方などの講座を実施した。
	社会教育課	89 生涯学習まちづくり出前講座	市の施策や事業等をテーマに、市職員等が市民のところへ出向いてお話しする出前講座を実施し、市民が自分達のまちについて学ぶ生涯学習の機会を提供します。	講座名「青梅市の防災対策(地震・風水害)〜自助・共助・公助〜」以下35講座 防災課以下18課 延べ受講者数 1,748人	○	前年度に比べ、延べ受講者数が大きく増加したから。
	青梅佐藤財団・社会教育課	90 国際理解講座	1 世界に広がる教室 次代を担う青少年(小学4年生~高校生)のために、国際的な視野と教養が身につくよう支援します。(英会話と文化講座) 2 外国人日本語講座 外国人が日本語を正しく理解し、安全で快適な市民生活が送れるよう講座を実施し、支援します。(正しい日本語の学習「音声・文字・助詞」)	・小学生講座 実施日 5月21日~3月4日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 小学校4年生21人、小学校5年生22人、小学校6年生17人 計60人 ・中学・高校生講座 実施日 5月21日~3月4日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 中学1年生16人、中学2年生14人、中学3年生8人、高校3年生1人 計39人 ・外国人日本語講座 実施日 5月18日~11月16日(全18回) 内容 正しい日本語の学習、音声、文字、助詞 参加人数 6人 英語やひらがなの多様など、外国人にわかりやすい周知を実施する。	○	世界に広がる教室は合計で99人の参加者を迎えて講座を実施した。今後とも多くの受講生に参加してもらえるよう広報していく必要がある。 外国人日本語講座は、例年通りの5月に開始し、11月の閉講式までの18回を実施することができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	高齢者支援課	91 介護予防講演会	介護予防に関する基本的な知識の普及啓発のため講演会を開催します。	介護予防、認知症予防等に関する講演会を2回開催した。 ・認知症講演会「こぼすはか？お口の健康と認知症の関係」 実施日：11月2日 講師：井上一彦氏(小曾木歯科院長) 参加者：19人 ・介護予防講演会「人生100年時代、運動を楽しもう。運動を始めるのに遅すぎることはありません」 実施日：3月23日 講師：清野 諭氏(東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター) 参加者：35名 次年度も継続して開催する。	○	認知症講演会を開催し、歯と認知症の関係を含めた、認知症に関する情報や正しい知識を伝え、歯磨き指導など実践的な内容の講義も実施した。介護予防講演会では、自身で安全に運動を楽しめるように、実践も踏まえた具体的な方法を伝え、在宅高齢者の健康維持・増進を目指した。
	高齢者支援課	92 介護予防教室	高齢者の健康寿命延伸、介護予防を目的に、健康チェックや集団での運動などを行います。	介護予防教室を下記のとおり実施した。 ・健康長寿のび〜る教室 10回×年2回 計29人(延べ220人) 委託事業者：医療法人社団和風会 沢井市民センター、大門市民センター ・脳イキキ教室 全6回×年3回 計55人(延べ270人) 委託事業者：医療法人社団和風会 会場：福祉センター、文化交流センター、長洲市民センター 次年度も継続して開催する。	○	介護予防や認知症予防として教室参加による閉じこもり予防や仲間づくりを行うことの大切さも伝えることができた。家で自身で実施できる課題の提供を行い自身でも介護予防に取り組めることを目指した内容で実施した。
	健康課	93 おうめ健康まつり	医師による健康相談、健康チェック、歯科相談、展示、体験等のコーナーや健康に関する講演など、市民一人ひとりが家族ぐるみで楽しく健康づくりを学べる催しです。	<令和4年度実施状況> 新型コロナウイルス感染症予防のため、実施を見送った。 <令和5年度目標> 新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、従来よりも規模を縮小して実施する。	—	実施を見送ったため。
	健康課	94 健康教育	生活習慣病の予防とその他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自分の健康は自分で守る」という自覚を高め、健康の保持増進を行うための講座や教室を実施する。	【取組状況】 生活習慣病予防に関する講座3回(61人)、ヘルスアップ教室16回(129人)、ヘルスエクササイズ22回(306人)、骨密度検診時教育10回(1,733人)、体組成測定会11回(69人) 女性の健康講座1回(12人) 【次年度目標】 ・生活習慣病予防に関する講座1回、ヘルスアップ教室16回、ヘルスエクササイズ22回、骨密度検診時教育10回、体組成測定会5回、女性の健康講座1回 ・DXを推進する。	○	・体組成測定会では、健康運動指導士等に依頼し指導内容が充実した。 ・申し込みなどに電子申請等のDXを活用した。
	健康課	95 健康相談	心身の健康に関する個別の相談に応じ必要な指導及び助言を行い、自分の健康管理を行うための健康相談を実施する。	【取組状況】 中央図書館：健康相談11回(148人)、栄養相談11回(35人) 健康センター：面接・電話相談を実施 【次年度目標】 ・中央図書館：健康相談12回、栄養相談12回 ・健康センター：面接・電話相談を実施 ・DXを推進する	○	・栄養相談を予約制にし内容が充実させたため参加者が増加した。 ・積雪のため中央図書館での健康・栄養相談は各1回中止したが、他は予定通りに実施した。 ・申し込み等でDXを活用した。
	総合病院管理課	96 おうめ健康塾	当院の医師・看護師等が講師となり、疾病の原因、治療、予防等について話し、質問にもお答えします。年間11回の開催予定です。	新型コロナウイルス感染対策を考慮し、令和3年度11月からオンライン配信版おうめ健康塾を実施。令和4年度は4本の動画を公開。令和3年度公開した3本の動画を含め、計7本の動画が視聴可能となった。 次年度以降についても、引き続き市民ニーズに沿った動画を公開していく。	○	令和3年度からオンライン配信を開始し、令和4年度は4本の動画を公開した。
	スポーツ推進課	97 健やかに生きるための教室・講座の企画運営	市民が健康な生活を送れるよう支援する教室・講座を開催します。 1 短期スポーツ 気軽に楽しく誰にでもできるスポーツ教室を開催します。 2 長期スポーツ教室 青少年の心身の健全育成を目的とした剣道・柔道教室を、年間を通して開催します。 3 ジュニアスポーツ教室 小学生のスポーツへの関心をより高め、各種スポーツの紹介、体験を通して自身の適性を知り、興味や親しみを持ってもらうことを目的として開催します。 4 障がいの有無や年齢・性別にかかわらず、誰でも楽しめるスポーツの教室等を開催します。	1 短期スポーツ教室 ・少林寺拳法教室 開講期間 7月24日(日)～8月21日(日)毎週日曜日 開講回数 5回 参加人数 39人 2 長期スポーツ教室 ・柔剣道スポーツ教室 柔道教室 延べ292教室(3097人) 剣道教室 延べ464教室(4192人) ※括弧内の人数は延べ参加人数 3 ジュニアスポーツ教室(各教室計4回ずつ実施) バスケットボール教室(189人) バレーボールに教室(206人) バドミントン教室(197人) 水泳教室(中止) ビーチボール教室(92人) テニス教室(162人) フットサル教室(109人) 卓球教室(64人) ソフトテニス教室(45人)	○	各種スポーツ教室を通じて、競技スポーツに関心がない方へ様々なアプローチを行ったため。 また、教室を開講するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で開講した。 小学生のスポーツへの関心を高め、体験を通し、スポーツへの興味や親しみを持ってもらうことができた評価する。
	社会教育課	98		青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・作業療法学生による認知症予防講座(83人) ※括弧内は講座の延べ参加人数	○	例年度同様、老化予防や健康に関する運動講座を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	99 各種体操教室	市民の健康・体力づくりを目的とした各種体操教室を総合体育館で実施します。幼児、小学生、親子、勤労者、女性、中高齢者など、対象別の各種教室を企画・開催し、参加者にとって魅力のある教室の運営を図ります。	【当日参加型教室】 ホップステップ体操、いきいき体操、はつらつ体操、シェイプアップ体操、のびのび体操、男性のヘルシー体操、リフレッシュ体操、フレッシュアップ体操 延べ参加人数:9,931人(338回) 【登録教室】 ママヨガ、太極拳、バドミントン、ジュニアフィットサル(年中・年長)、ジュニアフィットサル(1年生～3年生)、パワーヨガ、骨盤調整ヨガ、ボディバランスストレッチ、コンディショニングストレッチ、コンディショニングバレエ、ジュニアバドミントン(年中・年長)、ジュニアバドミントン(1年生～3年生)、チアダンス、Figure8、骨盤エクササイズ(木曜コース)、リラクソヨガ、アクティブヨガ、体幹エクササイズ初級、体幹エクササイズ中級、幼児体育、児童体育、ZUMBAGOLD、ZUMBA、KID'S HIPHOP、骨盤エクササイズ(土曜コース) 延べ参加人数:7,456人(830回)	○	指定管理者の事業として実施し、多くの方に参加していただいた。
	スポーツ推進課	100 青梅マラソン大会	スポーツを通じてボランティアをする機会を提供します。 全国の市民ランナーと国内外の招待選手が青梅に集い、マラソンを通して選手と市民がスポーツ・文化交流を深めます。 30キロの部、10キロの部	実施日 2月19日 参加人数 10,831人 30キロの部 8,440人 10キロの部 2,391人 ジュニアロードレース 参加人数 290人 小学生の部 201人 中学生の部 89人	○	第55回目の記念大会として、1万人以上の参加者を招き開催したため。なお、感染症対策を講じ、規模を縮小しての開催となったため、例年開催していたステージイベントの開催は見送った。
	スポーツ推進課	101 有酸素運動普及事業	気軽にできるウォーキングや軽体操等の有酸素運動普及・促進に関する事業を開催し、市民の体力・健康の維持増進の取組への意欲向上に寄与します。	・第18回ウォーキングフェスタ 11月23日(祝日) 雨天のため中止となった。 ・オクトバー・ラン&ウォーク2022 開催期間 10月1日(土)～10月31日(月) 参加人数 ランニングの部 117人 ウォーキングの部 299人	△	第18回ウォーキングフェスタは雨天中止となり、オクトバー・ラン&ウォーク2022は前年度に比べ、参加人数が2部門とも減少したため。
	スポーツ推進課	102 スポーツレクリエーションフェスティバル	スポーツ・レクリエーション活動を全市民的な規模で実践する場を提供することにより、市民一人一人の活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツを振興します。	スポーツDAY青梅として内容も含めてリニューアルし、各種スポーツ体験や東京2020大会のレガシー事業(レガシー・ミュージアムin青梅・シンポジウム等)、次世代スポーツ(e-スポーツ)体験等を実施した。 ターゲット層を子どもにすることで、家族での来場者が増えた。次年度は、さらに幅広い年代層に来場してもらおう工夫をしたい。 スポーツDAY青梅2022 実施日:令和4年10月10日(祝) 会場:住友金属鉱山アリーナ青梅ほか 参加者数:延べ4,465人	◎	固定化していたプログラムを一新し、e-スポーツ等の新しい要素を加えることで子どもを中心とした家族連れに多く来場してもらうことができた。来場者数や、アンケートによる満足度からも、生涯スポーツの入り口となるイベントとして、一定の成果を得たと評価する。
	スポーツ推進課	103 市民体育大会	市民の体力づくりと技術の向上を図ることを目的として、青梅市体育協会に委託し、各種大会を実施します。	種目 30種目 参加人数7,042人 ※水泳、少林寺拳法、障がい者と家族のスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症の影響のため、陸上競技については悪天候のため中止とした。	○	広く市民に開かれた大会として実施している。だれでも参加できる大会を開催することで、市民体育大会への参加を目標とし、スポーツに取り組む機会を提供している。
	スポーツ推進課	104 奥多摩溪谷駅伝競走大会	80回を超える歴史と伝統を誇る大会で、200チーム以上が冬の奥多摩路を疾走します。 一般、大学、高校、女子、中学生、小学生、支会・自治会の部	実施日 12月4日 参加チーム数261チーム	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じて、安全に実施し、一般、大学、高校、女子、支会自治会、小中、すべての部を再開することができた。
	スポーツ推進課	105 屋内温水プール開放事業	市内にある民間温水プールを借り上げ、年間を通じて市民の健康、体力づくりの場として提供します。	開放回数:50回 利用人数:1,913人 令和5年度は、毎週日曜日の開放に加え、7月から11月にかけて全5日間祝日も開放し、市民の更なる健康、体力づくりの場を提供したい。	○	新型コロナウイルス感染症の影響で閉館することなく、年間50回開放することができ、市民の健康、体力づくりの場として提供することができたと評価する。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	社会教育課・スポーツ推進課	106 東京2020大会に向けた気運醸成事業	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、スポーツを始め文化、教育、国際交流など幅広い分野で様々な取組を進め、大会気運の醸成を図る。	<p>【スポーツ推進課】</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックレガシー事業として、カヌー体験・カヌー大会観戦・オリンピアンによる講演会を実施した。</p> <p>多摩川等の自然を有する青梅ならではのスポーツを中心に、今後もカヌーをはじめとしたスポーツの体験機会を設けていきたい。</p> <p>青梅×オリンピック・レガシー事業～カヌーを見て、聞いて、体験しよう！～</p> <p>①カヌー体験会 実施日：令和4年6月26日(日) 会場：釜の淵公園付近の多摩川 参加者数：33人</p> <p>②カヌー競技観戦ツアー 実施日：令和4年10月23日(日) 会場：カヌー・スラロームセンター 参加者数：15人</p> <p>③カヌーオリンピアン特別講演会 実施日：令和4年11月13日(日) 会場：青梅市文化交流センター多目的ホール 参加者数：26人</p> <p>【社会教育課】</p> <p>・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化ワークショップ)(293人)</p> <p>①まげたり、たいたたり、銅線であそぼう！～アクセスリヤや小物をつくってみよう～</p> <p>②縄跳びパフォーマンス&ワークショップ</p> <p>③子ども体験遊びンピック</p> <p>・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化キャラバン)(142人)</p> <p>知る・きく・つくる・かなでる！竹の世界へようこそ</p>	◎	<p>【スポーツ推進課】</p> <p>体験会・競技観戦・講演会という連年の事業を通じて、カヌーの魅力や可能性について、市民が知る良い機会となった。単なるカヌー体験会だけではなく、実際に東京2020大会で競技が行われた会場での観戦や、オリンピアンによる生の声が聞ける講演会を実施することで、レガシーとしての意義を、参加者により深く伝えることができた評価している。</p> <p>【社会教育課】</p> <p>スポーツ推進課と協力して、「スポーツDAY青梅2022」の中で文化体験ワークショップ等を実施することで、文化の素晴らしさをアピール出来た。また、文化キャラバンでは、過去に開催したことのない地域で実施することができた。</p>
			市民安全課	107 広聴活動	市政に関する要望、意見、提案等を寄せていただき、市民参画によるまちづくりを進めるために役立てます。	市長への手紙の受付ボックスを市内の公共施設等34か所に設置し、また市ホームページのメール版市民の声の投稿フォームからいつでも市民の声を聴けるようにするとともに、要望書についても、随時受付を行った。 ・市長への手紙 169件 ・メール版市民の声 742件 ・要望書 89件
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	108 交通公園日曜映画教室	楽しみながら交通安全の知識が得られるように、幼児から親子を対象に交通安全の講話と映画上映を毎週日曜日に実施します。	交通公園の建物は、耐震性がないとの指摘を受けているため、建物2階を使った映画上映や講習会は、3年度同様実施していない。	-	交通公園の建物は、耐震性がないとの指摘を受けているため。
	市民安全課	109 交通公園交通安全教室	楽しみながら安全な歩行や自転車利用法、交通マナーが習得できるように、保育園児や幼稚園児、小学生、高齢者を対象に交通公園で随時実施します。	参加人数内訳 小学生：1,019人(3年生、自転車免許証交付 915人) 幼稚園、保育所(交通安全教室)：555人 その他：143人(交通少年団、青峰学園等)	○	青梅警察署を始めとする各種関係団体と協力し、市内の小学校3年生を対象とした自転車運転免許証交付事業を実施するとともに、幼稚園、保育園、希望校(3年生以外)を対象とした交通安全教室も随時実施し、交通ルール、マナーの啓発に務めた。
	市民安全課	110 交通安全講習会	青梅警察署および青梅交通安全協会と連携し、一般市民を対象に市内12か所の会場で、交通安全講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。春・秋の交通安全運動に先がけて、各12日間実施します。	・秋の交通安全講習会 新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止 ・春の交通安全講習会 3月6日～3月18日(3月12日を除く)12会場 参加人数 204人	○	一般市民を対象に春・秋の交通安全運動に先駆けて、市内12か所の会場で、交通安全に関する講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚を図った。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	111	セーフティ教室(交通事故再現方式)	交通事故再現方式による自転車安全教育を中学校において行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。	第三中学校(10月24日) 参加生徒数:503人 第一中学校(10月25日) 参加生徒数:239人 第二中学校(2月3日) 参加生徒数:378人	○	交通事故の衝撃や怖さを実感することにより、交通安全意識の高揚、自転車走行ルール・マナーの向上を図ることができた。
	市民安全課	112	専門相談事業	専門相談員による各種専門相談(法律相談、人権の上相談、行政相談、交通事故相談、登記相談、相続・遺言等暮らしの手続き相談)を実施します。	・法律相談(相談内容) 土地家屋の賃貸借、相続、離婚、債権債務、損害賠償など(相談回数) 80回 (相談件数) 452件 (相談員) 弁護士 ・交通事故相談(相談内容) 交通事故による損害賠償問題、示談および保険手続きなど(相談回数) 20回 (相談件数) 26件 (相談員) 弁護士 ・登記相談(相談内容) 土地・家屋の不動産や法人登記および境界に関すること(相談回数) 12回 (相談件数) 56件 (相談員) 司法書士、土地家屋調査士 ・身の上相談(相談内容) 家庭や身の上の悩み事、職場の差別やプライバシー侵害など(相談回数) 14回 (相談件数) 24件 (相談員) 人権擁護委員 ・行政相談(相談内容) 国の行政機関や政令で定める法人の業務に対する苦情や要望など(相談回数) 14回 (相談件数) 6件 (相談員) 行政相談委員 ・相続遺言等暮らしの手続き相談(相談内容) 相続に関する遺産分割協議書、遺言書等の書き方や手続きに関すること(相談回数) 12回 (相談件数) 72件 (相談員) 行政書士	○	専門相談員による各種専門相談を実施し、市民からの相談に対し、解決等に向けての助言を行った。
	市民安全課	113	パネル展等(消費者知識習得・被害防止)	消費者知識の習得と消費者被害防止を図るため、パネル展示やパンフレット等の配布により啓発を行います。	市役所エントランスロビーにおいて、悪質商法の手口等を紹介したパネル展示を2回実施したほか、敬老会の会場において悪質商法被害に関するパンフレットを配布した。	○	市役所エントランスホールでのパネル展示および敬老会の会場においてパンフレット配布等を行ったことにより、悪質商法をはじめとする消費者トラブルの事例と対処法についての啓発を行うことができた。
	市民安全課	114	消費者相談	契約上のトラブル、欠陥商品による被害を受けた場合などの相談を受けることで、相談者に消費生活上の知識を広げていただきます。週5日(開庁日全日)	消費者相談は、開庁日に実施し、毎月第2・第4火曜日については、午後6時まで相談時間を延長した。 令和4年度相談件数:900件	○	相談を受ける際には、トラブルの解決はもとより、トラブルを回避するための心構えや対処法などを情報提供できた。
	市民安全課	115	消費生活講座等	消費者問題や日常生活に役立つ身近なテーマを取り上げ、開催します。	消費者講座・啓発事業等(生活知識に関するもの6事業:290人、食に関するもの1事業:27人、計7事業開催し317人が受講した。	○	生活の中で身近な消費者に関する題材等をテーマに講座を行い、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加、受講があり、啓発ができた。
	市民安全課	116	市民のくらし展	消費者団体等と協働で、市民生活に関する情報発信やコミュニティの大切さを啓発するため実施します。年1回	市役所会議室において市民のくらし展を実施し、消費者・人権・行政相談を啓発するパネル展を実施した。また、特設消費者相談・行政相談等を実施した。	○	産業観光まつりの会場で実施することにより、多くの来場者に消費者被害の実態や人権に関する啓発を行うとともに、特設の消費者相談や行政相談により、制度の案内をすることができた。
	環境政策課	117	環境月間	環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、各種の啓発を行います。	・6月の環境月間の期間中、おうめ環境フェスタの一環として、市役所1階において市民団体のパネル展示と、中央図書館において環境関連図書コーナーを設置した。	○	市民団体と協議を重ねて、お互いに満足のいく事業を実施できた。
	環境政策課	118	親水事業	市民団体等と協働で、事業体験型や学習型の親水事業を実施します。	おうめ水辺の案校運営協議会構成団体と協働で、小中学生を対象とした親水事業を8回実施。のべ参加者276名(保護者含む)。	○	感染症が拡大したことで、夏期実施予定の2事業が中止となったものの、それ以外の事業については、大きな事故や弊害もなく実施することができた。
	環境政策課	119	ヤマメの飼育体験教室	市内小学生がヤマメのふ化から放流までを体験することにより、自然の大切さや生命の尊さを知るとともに、青梅の身近な河川に親しむ場を提供します。	発眼卵配布 ・第七小学校(11月2日、31人)→3月8日稚魚放流 ・第六小学校(11月4日、93人)→3月10日稚魚放流 ・第二小学校(11月8日、72人)→3月9日稚魚放流 ・友田小学校(11月8日、51人)→3月7日稚魚放流	○	参加児童には発眼卵のふ化から成長までお世話をしながら観察することを通して、自然の大切さや生命の尊さについて考えてもらう機会になったと考える。
	環境政策課	120	動物愛護週間	市内のボランティア団体と協働で、動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうための各種啓発活動を行います。	9月に予定していた「動物愛護週間イベント in おうめ」(講演会、パネル展示)については、新型コロナウイルス感染拡大予防のためパネル展示のみ実施。 次年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、講演会を実施していきたい。	—	従来隔年実施していた講演会は実施できなかったが、パネル展示について、市民に対する動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうことができたと考えられる。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	清掃リサイクル課	121	フードドライブ	食品ロス対策の啓発として、家庭で余っている食べ物をお持ちいただき、集められた食べ物をフードバンク等に寄付する活動です。	窓口での常時および産親まつりで受付をし、例年以上の回収量となった。 集められた食品は、市内こども食堂や福祉事務所等に食品提供をしているフードバンク青梅に寄付した。 R4実績:232件 1215.1kg R3実績:117件 578.6kg	○	フードドライブにより、ごみ減量および食品ロス削減を図ることができた。また、実際に寄付いただくだけでなく、電話での問い合わせも多数あるため、市民へ周知されてきていることが伺えた。
	清掃リサイクル課	122	ごみ処理施設見学会	市民のリサイクル意識の高揚と啓発のため、リサイクル製品再生工場等の施設見学会を実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施。	—	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止。
	清掃リサイクル課	123	市内一斉美化デー	ごみ減量の啓発および地域の環境美化向上のため、環境美化委員の協力により各地域の美化活動を行います。年2回	市内一斉美化デーを、5月8日と12月11日を中心として各地区ごとに実施し、5月が753人、12月が927人、延べ1,680人が参加した。	◎	環境美化委員連合会を中心に、市内全域で多くの市民の協力により美化活動が行われると同時に、環境美化の意識の高揚が図られた。
	清掃リサイクル課	124	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスター&キャッチフレーズコンクール	社会問題になっているごみ問題について、その減量化や資源化の大切さを個々に考えてもらうよう、啓発を行います。	ポスター部門は小学校9校から49点の応募、キャッチフレーズ部門は小学校10校から120点の応募があり、10月4日に審査会、10月30日に表彰式を行った。入賞作品はホームページへ掲載した他、市役所1階に展示し、金賞および最優秀賞作品は令和5年度資源物・ごみ収集カレンダーの表紙に使用した。	○	学校の協力等により多くの児童にごみ減量や資源リサイクルについて考えてもらう機会となった。また、入賞作品等を使用して、市民へごみの減量化や資源化について啓発を行うことができた。
	清掃リサイクル課	125	ごみ減量講座	資源循環型社会の目的理解と、ごみ減量を目指した学習を通して、ごみ問題についての啓発を行います。	ごみ減量をテーマに、環境美化委員を対象にごみ減量講演会(1回)を行い、また、市内小学校および各種団体の要請に基づき、ごみ減量をテーマに生涯学習まちづくり出前講座を2回行い、ごみ減量の意識向上を図った。	○	ごみ減量講演会に53名、出前講座に78名の多くの市民が参加し、ごみ減量等の意識の向上が図れた。
	梅の里再生担当	126	梅の里再生に関する学びの機会の提供	ウメ輪紋ウイルス被害からの梅の里の再生・復興に関し、地域の子供たちや市民に対し、学びの機会を提供します。また、教育機関と連携し、児童・生徒等に梅に関する体験の機会を提供します。	令和3年度にウメ輪紋ウイルスによる被害からの梅の里再生への取り組みを映像化し、DVDとして作成した。 令和4年度都立多摩高校ほか、合計3件の貸し出しがあった。 次年度目標 引き続き、資料・教材として貸出していく。	○	都立多摩高校の秋の授業公開において、DVDの放映のほか、紅梅苑の鈴木社長を招き公演を行った。梅の里再生・復興について、多くの高校生が学ぶ機会を提供することができた。
	社会教育課	127	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	日常生活や環境を考え、暮らしに役立つ工夫やヒントを得る機会としての教室・講座を開催します。	・令和4年度農業・食育体験教室(370人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 1講座 370人 新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されたため、食育体験や牛のふれあい体験でのアイスクリーム調理などを充実していく。	○	暮らしやすい環境のための教室・講座として、1講座を実施した。
	清掃リサイクル課	128	「ごみ拾い」に「スポーツ」の要素を加え、健康増進と環境美化の推進を図る護美拾い合戦など、多目的な取組を行います。	実施なし。	—	—	—
スポーツ推進課	129	護美拾い合戦	新型コロナウイルス感染症の影響から、実施の計画を行わなかった。	—	—	—	護美拾い合戦については事業終了。今後も環境美化の推進を図るための取組を行っていく。

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	企画政策課	130 ぶらっとフォーム推進ワークショップ	「第六次青梅市総合長期計画」に位置づけたまちの将来像を実現するため、多様な主体の参画・連携・協働により、魅力的なまちづくりを目指す「施策連動型のしくみ」を推進するため、対話の手法を取り入れたワークショップを開催します。	令和4年度は、令和5年度を初年度とする「第7次青梅市総合長期計画」の策定に向け、「未来の青梅市」をテーマにワークショップを開催した。 開催日 令和4年7月12日(火) 参加者 17人	○	「第7次青梅市総合長期計画」策定に向け、10年後の青梅市をテーマとして、市民が主体となって話し合い、様々な意見や提案等を集めることができた。
	防災課	131 総合防災訓練	大地震による震災を想定した各種訓練のほか、避難訓練、初期消火訓練など住民参加型の訓練も実施し、防災意識の高揚を図り、防災知識や体験を深め、助け合い、協力し合う自主防災まちづくりを目指します。	新型コロナウイルス感染症感染防止対策をしたうえで、市および関係防災機関、市民等が一体となり、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた防災訓練を行った。 令和5年度以降も、同様の訓練を行っていく。	○	新型コロナウイルス感染症対策用に備蓄したテントや段ボールベッドを使用した避難所の開設訓練を実施することができたため。
	防災課	132 防災ハンドブックの更新・配布	市民への防災知識の普及および啓発のため、平成27年3月に配布した防災ハンドブックを更新し、配布します。市民の自助・共助の精神を養い、災害に対応できるよう支援します。	令和元年度に更新し全戸配布済み。 転入者への配布等については、継続して実施した。	—	令和元年度に終了した事業のため。
	市民活動推進課	133 市民活動災害補償制度	市民活動団体等が、活動中に不測の事故により、参加者や第三者に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合または参加者が負傷等された場合に保険で補償する制度を実施します。	・市民活動災害補償制度取扱要綱にもとづき、保険請求に係る事務手続きを行った。(市民活動推進係) 受付件数 傷害補償 4件 賠償責任補償 0件 合計 4件	○	自治会をはじめNPO・ボランティア団体など市民活動団体の活動に関して、その活動が安全・安心に行えるように市が切れ目なく保険に加入し、市ホームページでの周知や自治会支会長会議およびボランティア団体連絡会等でパンフレットの配布を行い、制度について認知され活用されているため。 なお、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で自粛されている活動が依然として多く、保険受付数は少なかった。
	市民センター	134 自主学習グループ支援	自主グループが学習活動を継続できるよう、活動場所や資料作成のための印刷機などを提供するほか、日ごろの活動成果の発表の場として、市民センター文化祭などを開催します。	・自主グループの活動場所として、会場や印刷機の貸出を行った。(各市民センター) ・(梅郷C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、梅郷地区文化祭(11月13日、約600人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(沢井C)自主活動グループや地域住民等が日頃の活動成果を発表する場として、市民センターにおいて三田地区総合文化祭を開催し、572人の来場者を得た。 次年度も市民センターを活動の場とする自主グループへの支援や発表の場としての当該文化祭の開催を予定する。 ・(小曾木C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として、小曾木つ子まつりとの合同開催で文化祭実行委員会とともに計画し、小曾木地区文化祭(11月12・13日、約440人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(東青梅C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭実行委員会とともに計画し、東青梅市民センターコミュニティ文化祭(10月15・16日、1,332人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(新町C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、新町末広町地区市民文化祭(11月12・13日、438人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(河辺C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、河辺市民センター文化祭(10月22・23日、1,073人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(青梅C)自主活動グループの日頃の活動発表と文化交流の場として、ネットたまぐーセンターあそびばART2022を、社会教育課・同実行委員会と共催で開催した。(11/26・27、延べ1,367人参加) ・【今井C】今井市民センターを利用している各自主グループの活動状況を展示、披露する文化展を開催した(10/29、30の2日間)。 ・(大門C)自主活動グループの日頃の活動発表と文化交流の場として 大門市民センター文化展(11月19・20日、263人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。	○	自主グループの活動場所として、会場や印刷機の貸出を継続した。また、活動発表の場として文化祭を開催した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(1) 地域コミュニティ活動への支援	市民センター	135	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	地域活動がスムーズに行われるよう、地域に密着した施設として、会場や備品・用具の提供などにより、地域活動が発展するよう応援します。 地区運動会、各種スポーツ大会、講演会、研修旅行、総会・役員会など	・地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また、地域に密着した施設として、活動の支援および会議等の会場、備品、用具の提供などの面での地域活動発展へ支援体制を整えた。(各市民センター) ・地区運動会等の地域行事および各団体の総会、役員会開催のほか、高齢者団体等の地域活動への積極的な支援を継続した。(各市民センター) ・(小曾木C)地区運動会から気軽に参加・体験型イベントに内容を変え、小曾木スポレクフェスタ(10月9日、約400人参加)を開催した。	○	地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また、地域に密着した施設として、会議等活動の支援および会場、備品、用具の提供などの面での地域活動発展への支援した。
	清掃リサイクル課	136	環境美化大会	ごみ減量を中心に、市の環境衛生美化推進のため、環境衛生・美化善行者、団体等への表彰と講演会を行い、地域における市民活動を支援します。	環境美化大会については規模を縮小開催し、環境美化委員をはじめ、環境衛生・美化善行者、優良団体等の表彰を行った。講演会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施。	○	美化活動およびごみ減量にご尽力いただいた市民および団体を表彰し、地域における市民活動を支援した。
	清掃リサイクル課	137	資源回収の奨励	自治会、子ども会等の地域活動の一環として、資源のリサイクルの必要性を認識し、リサイクルの促進に取り組み、ごみ減量を図ります。	144団体が実施。 資源回収量は2,566,077kg。 報償金29,200,244円、特別報償金3,628,954円を交付した。	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のため感染防止対策の徹底について協力をお願いした。各団体が感染拡大防止対策を図りながら資源回収に取り組んだことで、ごみの減量や資源の有効利用の推進、地域コミュニティづくりが図れた。
	スポーツ推進課	138	地区市民運動会等支援	青梅市自治会連合会の各支会、地区体育振興会、三団地連絡協議会等に対し、地区市民運動会等交付金を交付し、地区体育の振興とコミュニティの醸成を図ります。	令和2年度より市民活動推進課の自治会振興交付金に統合したため、スポーツ推進課の対応なし。	-	事業終了
	社会教育課	139	総合文化祭	青梅市文化団体連盟との共催により、市民の日ごろの学習成果発表の場として、各参加団体の舞台発表や作品展示等の総合文化祭を開催します。	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施した。 期間:10/8~11/23 参加団体:19団体 観覧者(参加者含む):4656人 地域住民の文化活動の発表、展示の場として、総合文化祭を実施し、文化活動の発展に寄与する。	○	令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したが、今年度は実施できたため。
	青梅市立第一中学校	140	クリーン活動	青梅大祭後の青梅の町を清掃する。生徒会を中心に、ボランティアを募って実施する。生徒の自主参加による活動。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から青梅大祭は中止となり、清掃ボランティアも中止とした。	-	中止のため評価不能。
	青梅市立第一中学校	141	多摩川1万人清掃活動	PTAを中心に、生徒に呼びかけて「多摩川1万人清掃」への自主参加を促し、清掃活動を行います。	新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から多摩川1万人清掃は中止となった。	-	中止のため評価不能。
	青梅市立第二中学校	142	地域防災訓練	各自治会単位で行われる地域防災訓練に生徒が参加し、地域の防災意識を高めます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一人として防災訓練に参加し、地域防災の意識を高めます。	-	中止のため評価不能。
	青梅市立第二中学校	143	地域清掃	学校周辺を含め地域を回り、ゴミを回収し美化活動に取り組みます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一人として地域美化に取り組む。	-	中止のため評価不能。
	青梅市立第二中学校	144	自治会運動会への参加	吹奏楽部が地域の自治会の運動会に参加し、演奏を行い地域との交流を図ります。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】吹奏楽部が地域貢献の一環として、可能な範囲で演奏に参加する。	-	中止のため評価不能。
青梅市立第二中学校	145	多摩川1万人の清掃大会への参加	身近の多摩川を自治会と協力し、清掃活動へ参加することで郷土愛や地域とのコミュニケーションを図ります。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一人として地域美化に取り組む。	-	中止のため評価不能。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由	
(2) 地域人材の育成と活用	防災課	146	防災リーダーの育成	自主防災組織の主体的な活動の要となる防災リーダーについて、計画的な育成を図ります。	7月には、初めての開催となる防災士情報連絡会を実施し、これまでの防災士としての活動内容の発表や、防災士同士のディスカッションを行い、防災士同士の情報共有や交流を深めた。 また、3月には外部講師を迎え、防災リーダー講習会(避難所運営に関する図上訓練)を実施し、避難所運営の難しさを疑似体験した。 R5年度以降も、連絡会および講習会により防災リーダーの育成を図っていく。	○	従来より実施していた防災リーダー講習会のほか、防災士情報連絡会を開催し、いずれも参加者の満足度が高く、防災リーダーの育成が図れたため。
	市民センター	147	子ども会ジュニアリーダー講習会	子ども会の最上級生となる小学校6年生を対象に、子ども会リーダーのあり方や行事計画の立て方、ゲーム指導などの講習会を行い、下級生の面倒を見ながら、子ども会活動ができるようにします。	・(長淵C)PTAから子どもの選出が難しいと相談を受け、令和元年度から休止している。 ・(東青梅C)青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業として「Challenge!!スポコミ2022」を実施し、51名の参加があった。	○	・(長淵C)事業を休止しているため ・(東青梅C)子ども会からの参加が多く、異なる学年で関わりながら活動を行うことができた。
	市民センター	148	子ども会育成指導者講習会	子ども会育成会役員などを対象に、子ども会活動のあり方や運営のポイント、レクリエーションのポイント等について研修会を行い、地域子ども会活動の活性化を図ります。	実施なし。	-	
	市民センター	149	地域の特性を生かした事業	各市民センターにおいて、その地域の特性を生かした講座・教室などを実施します。	・(梅郷C)①「梅郷ほたるウォッチング」を開催し、座学の後、梅の公園で蛍を鑑賞した。(6/24、26人参加) ②「梅郷子ふれあい塾」を開催し、梅郷地区の青少年に木工とポッチャの体験教室を行った。(10/15、30人参加) ③「健康教室やさしいヨガ教室」を開催した。(10/2、11人参加) ・(沢井C)新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や感染防止対策を踏まえて、地域の高齢者を含む65歳以上の市民を対象に「らくらく健康体操教室」を開催し軽度な運動による健康づくりに取り組んだ(開催回数17回、延べ569人参加)。この他、地域自然にふれあう自然観察ハイキングは雨天のため中止した。次年度もこれらの継続実施を予定する。 ・(長淵C)地域人材を活用して「親子マジック体験教室」を開催した。(3/18・25、のべ11人参加) ・(小曾木C)地域人材を活用して「手打ちそば教室」を開催した。(12/2、12人参加) ・「ほたるふやしたい実行委員会」を立ち上げ、小曾木地区の青少年による初夏のホタルとの保護の啓発活動を行った。(5/14、6/4、6/25、8/6のべ22人参加) ・(東青梅C)①「アロマワックスサジェ教室」を開催した。(11/19、9人参加) ②「心を整えるマインドフルネス教室～気持ちイイ〇〇」を体験しよう!～」を開催した。(3/26、15人参加) ・(新町C)新町ウォーク(歴史講座)を開催し、青梅新町の歴史散歩をした。(11/23、7人参加) ・(新町C)新町ウォーク(野鳥講座)を開催し、新田山公園で野鳥観察をした。(3/25、15人参加) ・(河辺C)65歳以上の市民を対象に「のびのび健康体操教室」を開催した。参加人数:686人 ・(青梅C)地域人材を活用して「フォークギター講座」を開催した。(9/4～11/27、延べ134人参加、社会教育課共催) ・(大門C)「ハーブ教室」「素敵なお庭作り教室」「苔玉作り教室」を開催した。(5/21、6/27、11/8、2/9 延べ59人)	○	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と市民センターが連携協力し、子どもたちの健全育成に活用することができた。(長淵C・小曾木C) ・新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、概ね開催成果を得た。(沢井C) ・新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、概ね開催成果を得た。(新町C)
	公園緑地課	150	緑地管理ボランティア	緑地管理ボランティアを対象に講習会を開催し、下草刈り等の緑地管理作業に必要な技術や知識を習得し、緑地の良好な環境を維持できる資質の向上を図ります。	・毎月第3土曜日(8月を除く)実施 ・永山公園内ボランティア管理緑地 ・下草刈りおよび支障木伐採等 以上の内容にて実施予定であったが、令和4年度については、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止。	-	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止のため。
高齢者支援課	151	介護予防リーダー養成講座	高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、自立した生活を送るために、介護予防について基本的な知識を身につけ、自分や家族、地域のために体操などを行う介護予防リーダーを養成します。	介護予防リーダー養成のための取り組みを下記のとおり実施した。 ・介護予防リーダー養成講座 全10回 20人(延べ112人) ・介護予防リーダーフォローアップ講座 全16回(延べ330人) ・介護予防リーダー交流会 全4回 51人 委託事業者:医療法人社団和風会 次年度についても事業を継続する。	○	介護予防リーダー養成講座を開催し、介護予防に関する知識の習得、地域や自宅で実践可能な体操の実践、自主グループ運営方法等について学ぶ機会および、住民主体の介護予防活動に向けた支援を行うことができた。今回は定員の20名すべてが修了し、20名のリーダーを養成することが出来た。コロナ対策を行いながらリーダーフォローアップ、交流会を実施し、多くのリーダーに受講してもらうことが出来た。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由																																								
(2) 地域人材の育成と活用	高齢者支援課	152 シルバーマスター制度	優れた技能、知識、経験等を有する高齢者をシルバーマスターとして認定・登録し、市民の学習活動の講師や指導者として推薦します。(対象:65歳以上の方)	<p>マイスター認定者 19名 令和4年度認定者 2名</p> <p>活動内容: 地域サロンにおいて、シルバーマスターによるイベントを開催した。</p> <p>次年度についても、引き続きシルバーマスターの拡充に努めるとともに、より多くのシルバーマスターの技能を披露する機会を提供していきたい。</p>	○	新たに2名のシルバーマスターを認定したことに加えて、地域サロンにおいて、定期的にシルバーマスターによる発表の場を設けることができた。																																								
	商工観光課	153 吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	<p>花しょうぶまつり・梅まつりの期間中に、市民によるボランティアの協力を得て、園内のガイドをしていただくとともに、自然に親しみ、人とのふれあいの場を提供するため、ガイドの募集・講習会を行います。</p>	<p>・吹上花しょうぶまつり 吹上花しょうぶ公園ガイドボランティア (1)打合せ会を4月14日 (2)講習会を4月28日、5月19日、23日、24日に実施した。 (3)株分け講習会を7月6日、8日 (4)広報にてガイドボランティアの募集を行った。</p> <p>次年度も継続してガイドボランティアの募集および実施をする。</p> <p>・吉野梅郷梅まつり 梅の公園ガイドボランティア (1)打合せ会を11月28日に実施した。 (2)講習会を2月15日、24日、28日に実施した。 (3)広報にてガイドボランティアの募集を行った。</p> <p>次年度も継続してガイドボランティアの募集および実施をする。</p>	○	<p>梅の公園ガイドボランティアは、コロナ対策をした上で実施することができ、来園者およびガイドに好評だった。</p> <p>吹上しょうぶ公園ガイドボランティアは、コロナ対策をした上で実施することができ、来園者およびガイドにも喜ばれた。</p>																																								
	農林水産課	154 青梅市森林ボランティア育成講座	初心者・未経験者を対象に、下草刈り、枝打ち、間伐などの森林施業に必要な知識や技術習得の講義・実技指導を行い、森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成・組織化を図ります。	<p>令和4年度(第12期)は、1年間で10回の講座を開催し、実践的な内容を中心に実施した。</p> <table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>5月21日</td><td>開講式、座学</td><td>21人</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>6月11日</td><td>市場などの見学</td><td>19人</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>7月9日</td><td>除伐、ロープワーク</td><td>20人</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>9月10日</td><td>下草刈り</td><td>17人</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>10月8日</td><td>間伐、ベンチづくり</td><td>16人</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>11月12日</td><td>間伐、道の補修</td><td>16人</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>12月10日</td><td>間伐、階段補修</td><td>12人</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>1月14日</td><td>枝打ち、木工</td><td>15人</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>2月11日</td><td>座学、木工、巣箱設置</td><td>11人</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>3月11日</td><td>植林、開講式</td><td>16人</td></tr> </table> <p>延べ参加人数 41人(青梅市民)</p> <p>インフルエンザやコロナウイルス感染症対策をとりながら、予定している講座の開催を目指す。</p>	第1回	5月21日	開講式、座学	21人	第2回	6月11日	市場などの見学	19人	第3回	7月9日	除伐、ロープワーク	20人	第4回	9月10日	下草刈り	17人	第5回	10月8日	間伐、ベンチづくり	16人	第6回	11月12日	間伐、道の補修	16人	第7回	12月10日	間伐、階段補修	12人	第8回	1月14日	枝打ち、木工	15人	第9回	2月11日	座学、木工、巣箱設置	11人	第10回	3月11日	植林、開講式	16人	○	毎回講座終了前に受講者に作業日誌を記入していただいているが、ほとんどの受講者から充実した内容であった旨の記入があり、一定の成果があったと考えられる。 新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、効率良く計画を立てることで充実した講座が開設できた。
	第1回	5月21日	開講式、座学	21人																																										
	第2回	6月11日	市場などの見学	19人																																										
	第3回	7月9日	除伐、ロープワーク	20人																																										
第4回	9月10日	下草刈り	17人																																											
第5回	10月8日	間伐、ベンチづくり	16人																																											
第6回	11月12日	間伐、道の補修	16人																																											
第7回	12月10日	間伐、階段補修	12人																																											
第8回	1月14日	枝打ち、木工	15人																																											
第9回	2月11日	座学、木工、巣箱設置	11人																																											
第10回	3月11日	植林、開講式	16人																																											
スポーツ推進課	155 スポーツ推進委員研修	スポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会を実施するとともに、東京都スポーツ推進委員協議会等が主催する研修への参加を促します。	<p>研修実施回数 2回 研修参加回数 6回</p> <p>6月25日 ニュースポーツ研修会 9月17日 広域地区別研修会「第7ブロック」 11月5日 課題別研修会 12月3日 実務研修会 2月11日 地域スポーツ支援研修会「市町村部」 2月25日 地域スポーツ支援研修会「全域」</p>	○	新型コロナウイルス感染症の影響も少なく、令和3年度に比べ、研修会参加回数が増加したため。																																									
社会教育課	156 青少年リーダー育成研修会事業	小学5年生から高校3年生までを対象に、異年齢集団による団体活動を通じて、自主性や社会性を養い、リーダーとしての資質の向上を図ります。	<p>6月19日～8月28日 全6回 市役所、沢井市民センターほか 延べ参加人数 200人</p> <p>今後は、更なる自主性・社会性の養育に繋がる研修会の実施に努める。</p>	○	班活動や青梅の地域資源を生かした活動を実施し、仲間との信頼関係を築くことや、自主性・社会性の養育を図った。																																									
社会教育課	157 講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	地域の人材を発掘し、身に付けた知識・技術などを広げていくため、人材登録制度を実施し、地域の教育力の向上を図ります。活用を促進するため、ガイドブックを発行します。	<p>教育委員会ホームページにて情報提供した。</p> <table border="1"> <tr><td>個人</td><td>文化系</td><td>29人</td><td>体育系</td><td>6人</td></tr> <tr><td>団体</td><td>文化系</td><td>1団体</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>地域の人材発掘のため広報による制度周知、募集等を行っていく。</p>	個人	文化系	29人	体育系	6人	団体	文化系	1団体			○	制度周知、募集および登録者情報の更新を行った。																															
個人	文化系	29人	体育系	6人																																										
団体	文化系	1団体																																												

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	社会教育課	158 芸術文化奨励賞	青梅市の芸術文化の発展を願って、地域で活動されている芸術家の方を発掘し、表彰します。	<ul style="list-style-type: none"> ・【書道】 虹川幸華 第45回全国学生書写書道展「文部科学大臣賞」受賞 ・【書道】 関口美夢 第10回全国書写書道伝統文化大会令和3年度総合の部「文部科学大臣賞」受賞 ・【書道】 田中則衣 第37回全国書き初め展覧会「文部科学大臣賞」受賞 ・【音楽】 市立第三小学校金管バンド部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会小学校部門に出場 ・【音楽】 市立第二中学校吹奏楽部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校S部門に出場 ・【音楽】 市立第三中学校吹奏楽部楽部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校A部門に出場 ・【音楽】 市立第六中学校吹奏楽部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校S部門に出場 ・【音楽】 市立吹上中学校吹奏楽部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校S部門に出場 ・【音楽】 市立泉中学校吹奏楽部 第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校A部門に出場 <p>今後も芸術・文化活動に業績を上げた対象者の表彰を行っていく。</p>	○	学校や文化団体へ、芸術文化奨励賞の周知を図るとともに、広報おうめ等を通じ、広く周知することができた。また、各大会結果を随時調査し、受賞状況の確認を行った。それによって、芸術・文化活動に業績を上げた対象者をもれなくリストアップできた。文化交流センターにて展示会および発表会も実施した。基金をもとに、受賞者には記念品を交付した。
	社会教育課(図書館)	159 おはなし学習会	おはなし(ストーリーテリング)の初心者で、市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、実践を含めた勉強会を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・初級おはなし学習会(活動予定者) 5月12日～12月8日 7回 延べ参加人数32人 5年度は、初級おはなし学習会を継続し、更に技術の向上を図りたい。 	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら実施し、32人の参加を得た。
	社会教育課(図書館)	160 絵本のべんきょう会	市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、絵本の読み聞かせの実践を含めた勉強会を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のべんきょう会 5月27日～3月10日 6回 延べ参加人数144人 5年度は、絵本のべんきょう会を継続し、更に技術の向上を図りたい。 	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら実施し、144人の参加を得た。
	商工観光課・青梅商工会議所	161 合同企業説明会in青梅	『地学地就』(地元で学んで地元就職する。)をテーマに、多摩地域の学生と、新卒採用する企業との出会いの場を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月9日に令和5年3月卒業見込の学生を対象に市内企業を中心とした合同企業説明会を実施した。 	○	・参加者31人のうち6人が正式採用となった。

4 学習情報提供と学習相談の充実

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 学習情報提供の充実	秘書広報課	162 「広報おうめ」への行政情報等掲載	月2回発行する「広報おうめ」に行政情報等を掲載します。	毎月1日、15日を発行日とし、24回発行した。市政情報等のほか、市民団体が開催するイベントや会員募集などについても掲載した。令和4年10月1日号より、紙面をより読みやすくするためにリニューアルを行った。引き続き、市政情報をはじめとする情報発信を行ってゆく。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	秘書広報課	163 市ホームページへの行政情報等掲載	市ホームページに行政情報等を掲載します。	ホームページにより広く市の情報や魅力の発信を行った。新型コロナウイルス感染症に関する各課から発信する情報を集約したページを作成し、知りたい情報をすぐに得られるよう配慮を行った。引き続き、市政のあらゆる情報を掲載し、市民に必要な情報を提供してゆく。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	情報システム課	164		秘書広報課へ移管。	-	
	防災課	165 土砂災害ハザードマップの作成	土砂災害ハザードマップを作成・配布し、危険区域の住民周知を行うとともに、土砂災害対応訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ります。	ハザードマップや危険区域については、地区の防災訓練への参加や出前講座を通して周知を図った。令和4年度の土砂災害対応訓練は、東青梅地区で実施し、土砂災害警戒区域に該当する地域の方の避難訓練、地区対策本部と第八支会地区防災対策本部との情報伝達訓練、市民の各種体験訓練を実施し、防災意識の高揚等を行った。令和5年度は、出前講座を実施するほか、第九消防方面本部と合同の土砂災害水防訓練を実施し、市民(自主防災組織)の防災意識の高揚を図る。	○	出前講座や訓練により、ハザードマップや危険区域の周知を図ることができたため。
	市民活動推進課	166 男女平等情報紙	市民の関心と理解を深めるため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を年2回発行します。	市民等への男女平等参画の意識啓発のため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を10月と3月にそれぞれ25,000部発行し、自治会加入世帯および公共施設等へ配布した。	○	情報紙は、市民が参画する編集委員会が企画・編集しており、毎号、記事内容、装丁などのさらなる充実に向けて話し合いながら取り組んでいる。
	市民センター	167 市民センターだよりの発行	市民センターで開催される事業や地域の色々な行事などの話題をお知らせします。	・支会や自治会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。(各市民センター) ・センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。(各市民センター)	○	ホームページによるお知らせとともに市民センターだよりを発行することにより、より幅広い市民への周知が図れた。 各自治会へ回覧するなどにより、ホームページの閲覧などパソコン操作が苦手な方などへも、一定の周知ができた。
	市民税課	168 青梅税務署管内小学生による「税を考える週間」書道展	西多摩地区税務協議会主催で、青梅税務署管内の小学5・6年生を対象に、書道作品の募集を行います。厳正な審査を行い、入賞者を決定、入賞作品の展示会(イオンモール、合同庁舎)および表彰を行います。	青梅税務署管内小学5・6年生から3,438点の応募があった。なお、青梅市からは15校522点の応募があり、特選5点、準特選2点、金賞5点、銀賞3点、銅賞3点、佳作39点の計57点が入賞した。 また、特選入賞者に対しては、イオンモール日の出イオンホールにて表彰式が行い、準特選以下の入賞作品とともに下記の日程で展示した。 ・11月11日～13日 イオンモール日の出イオンホール ・11月15日～18日 青梅合同庁舎 ・12月14日～28日 青梅市役所1階エントランスロビー 【次年度目標】 令和4年度同様に事業を実施し、税に対する意識向上を図り租税教育を推進する。	○	書道を通じて税に関する正しい知識の普及と意識の高揚を図り、租税教育の推進が図れたため。
	社会教育課	169 生涯学習だよりの発行	市の各種教室、講座、講演会、イベントや市民グループ・団体および西多摩の関係施設の生涯学習情報をまとめて提供し、市民の学習活動を応援します。年4回発行(4月・7月・10月・1月)	生涯学習だよりの部数を各回1,200部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。 市内の団体等からの情報を収集しながら発行していく。	○	生涯学習だよりの部数を各回1,200部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。
	社会教育課	170 社会教育事業の学校への周知	市民センター等で実施する生涯学習事業を積極的に学校へ周知をします。	講座開催ごとに、小・中学校などにポスター・チラシを送付するほか、生涯学習だよりを配布して周知した。	○	講座によって全校配布を行うなど、チラシの配布方法や枚数を変更した。また、子ども向けの講座や講演会は学校に申込みボックスを設置し、申し込みにやすくするなど工夫を図った。
	社会教育課(図書館)	171 図書館の発行	図書館の事業や新着図書を紹介する図書館報を発行します。	・図書館報 年6回発行 各回約100部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載 5年度は、内容の充実に努めたい。	○	2か月に1回の発行ペースで年6回発行し、図書館事業を紹介することができた。
社会教育課(図書館)	172 ブックリストの配布	幼児、小学校(低・中・高学年別)および中・高等学校の児童・生徒に推薦図書リストを配布します。	・幼児向けブックリストを市内幼稚園、幼稚園、保育所を中心に1,053部配布した。 ・小学校(低・中・高学年)向けブックリストを市内の小中学校を中心に2,756部配布した。 ・中高生向けブックリストを市内中学校および高等学校に1,279部配布した。 5年度は、ブックリスト配布を継続する。	○	保育所や幼稚園、小中学校など市内全域の幼児・児童・生徒にブックリスト配布し、図書館を紹介することができた。また、令和4年度は、市内高等学校2校にブックリスト200部を配布した。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 提供の充実 学習情報	社会教育課 (図書館)	173	分館図書館だよりの発行 新着図書を中心に、特集なども組んだりしながら、市民への推薦図書を楽しく紹介する、図書館だよりを発行します。	・分館図書館だより 毎月発行(年12回)・各回115部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載 5年度は、内容の充実を図りたい。	○	定期として毎月発行し、発行時期に応じた特集や新着図書を紹介することができた。
(2) 学習相談の充実	社会教育課	174	生涯学習相談 青梅市に登録された講師・指導者等の人材情報や生涯学習施設、講座・催し物、学習グループ等の情報にもとづいて学習相談を受け、市民の学習意欲が活動につながる相談体制を構築します。	窓口で随時情報提供を行うほか、ホームページによる周知を図った。 また、文化交流センターで活動している団体を紹介した冊子を活用し、案内を行った。	○	ホームページ、窓口や電話でのサークル紹介や講師紹介を行った。

5 生涯学習推進体制の確立

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和4年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 推進体制づくり	職員課	175 職員研修受講支援	「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」等の生涯学習の推進を図るため、職員の担当業務に必要な能力の向上や知識を得るための研修受講を支援していきます。	業務に必要な知識等の修得を図るため、東京都市町村職員研修所の実務研修に25名、東京都研修所等の公的機関が主催する研修に3名、その他各種研修機関が主催する研修に40名の職員を派遣した。 また、自己啓発学習を促す通信教育等を20名が受講した。 次年度も引き続き研修受講を支援していく。	○	令和4年度研修実施計画にもとづき、職層や経験年数に応じた研修に、効果的に職員を派遣することができたため。
	社会教育課	176 生涯学習推進本部	市長を本部長とする生涯学習推進本部(行政組織)で、生涯学習推進の目標・基本方針、推進計画を策定し、生涯学習推進施策を全庁的に進めます。	・生涯学習推進本部会議開催数 2回 第1回開催日 7月7日 第2回開催日 11月8日 内容 出前講座の実施状況、新緑祭の開催について等	○	生涯学習本部会議を2回実施し、各課で行う出前講座の実施状況や青梅市の生涯学習に関する報告等を行い、青梅市の生涯学習全体の状況について議論した。
	社会教育課	177 生涯学習推進市民会議	学識経験者や生涯学習関係団体の代表者等からなる市民組織。市民の声を聞きながら、市と市民の協働で生涯学習推進施策を進めます。また、生涯学習推進市民会議企画講座を実施します。	・生涯学習推進市民会議開催数 3回 ・生涯学習推進市民会議企画講座 4講座 延べ参加人数 216人	○	新緑祭の運営方法についての協議や市民会議企画講座の実施の促進等について話し合った。 また、「第六次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書」をもとに青梅市の生涯学習全体の状況について議論した。
(2) 基盤づくり	社会教育課	178 市民企画講座の募集	市民ニーズに合った講座を生涯学習推進市民会議等から募集し、市内の施設で開催します。	・生涯学習推進市民会議企画講座 4講座 「作業療法学生による認知症予防講座」(83人) 「筆を持ってみませんか」(58人) 「ストーリーテラーと影絵劇 ～生きた影絵の物語～」(63人) 「英語で挑戦！ワイヤーワークの築づくり」(12人)	○	市民会議委員の協力により、講座を企画した。新型コロナウイルス感染症拡大予防に努めながら開催した。
	社会教育課	179 アンケートの実施	講座や講演会の参加者にアンケートを実施し、市民の学習ニーズを把握します。	アンケート項目に今後参加したい内容を、過去のアンケートや実施内容から例を上げ、回答者が選択できるようにしたことにより、回答率が上がった。 アンケートの回答を講座や講演会のテーマ選びの参考としたい。	○	参加者のニーズがより把握しやすくなった。
	社会教育課	180 学習支援体制の構築	より多くの市民が学習機会を得ることができるよう、保育付きの教室や手話通訳者を配置するなど、学習支援体制の構築を推進します。	新型コロナウイルス感染症拡大を受け、講座や講演会は、人数制限を行うほか、リモート開催や動画配信を行った。 今後は対面での講座、オンラインの講座それぞれの特性を生かした講座を行いたい。	○	家庭教育講演会は、3回の講演会のうち1回をZoomを活用して行った。 女性向けパワーアップ講座はZoomと市役所のハイブリッド形式で開催した。

令和5年度

第六次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書

(令和4年度分事業)

発行 青梅市生涯学習推進本部

編集 青梅市生涯学習推進本部事務局

青梅市教育委員会生涯学習部社会教育課

〒198-8701 青梅市東青梅1-11-1

